

IT経営プロセスのスキル定義

大分類コード	タスク大分類	中分類コード	タスク中分類	スキル大分類	スキル分類	スキル項目	知識項目	
A	ITを活用した事業変革が当たり前の企業風土に変えること【IT経営認識領域】	A1	変革を認識して経営変革に取り入れること【変革認識プロセス】	ヒューマンスキル	創造力	概念化力	事実から本質を見極める能力(本質追求の原則)、変革の構想を描く能力(構想明瞭化の原則)	
						問題発見力	環境変化に敏感になる能力(環境変化洞察の原則)、ITを常に念頭に入れる能力(IT徹底活用の原則)	
						実行・実践力	俯瞰力	ITコンテンツを活用する能力、戦略と実行を合わせる能力(戦略実行整合の原則)、全体視点で考える能力(全体最適の原則)
							深耕力	人間関係を構築する能力、分析・評価する能力
							継続力	持続的な成長を目指す能力(学習と成長の原則)、変革を続け成長する能力(SPDLI経営サイクルの原則)
						革新力	プロセスを改善・改革する能力、提供価値を問い続ける能力(価値創造の原則)、変化を捉え行動に移す能力(変革認識3Aの原則)、情報を見える化し活用する能力(変革のための情報共有・知識集約の原則)、社会からの要請に応える能力(企業価値創造の原則)、戦略とイノベーションを意識する能力(戦略経営とイノベーション経営サイクルの原則)、チャレンジと失敗を許す能力(新しい領域・事業へのチャレンジの原則)	
						コミュニケーション力	自分の考えを伝える力	プロフェッショナルの意識を持つ能力、経営者の「思い」を伝え組織を動かす能力(経営者牽引の原則)、変革への本気度を示す能力(経営者のリーダーシップとコミットメントの原則)、変革への「思い」を語る能力(経営者の思いの形式知化の原則)
		相手の考えを理解する力	資質・適性を合わせる意識を持つ能力					
		共感を呼ぶ力	自己意識を持つ能力、協創意識を持つ能力、合意形成する能力、組織を超えて共創する能力(オープンマインド醸成の原則)					
		A2	変革活動を経営レベルでサポートすること【変革マネジメントプロセス】	ヒューマンスキル	創造力	概念化力	事実から本質を見極める能力(本質追求の原則)	
						問題発見力	環境変化に敏感になる能力(環境変化洞察の原則)、ITを常に念頭に入れる能力(IT徹底活用の原則)	
						実行・実践力	俯瞰力	ITコンテンツを活用する能力、戦略と実行を合わせる能力(戦略実行整合の原則)、全体視点で考える能力(全体最適の原則)、目的と価値をマネジメントする能力(全体最適の原則)、変革マネジメント自体を目的にしない能力(変革マネジメント含目的性の原則)
							深耕力	人間関係を構築する能力、分析・評価する能力
							継続力	持続的な成長を目指す能力(学習と成長の原則)、変革を続け成長する能力(SPDLI経営サイクルの原則)、変化に迅速に適応する能力(変化へのモニタリング&コントロールの原則)
						革新力	プロセスを改善・改革する能力、提供価値を問い続ける能力(価値創造の原則)、変化を捉え行動に移す能力(変革認識3Aの原則)、情報を見える化し活用する能力(変革のための情報共有・知識集約の原則)、社会からの要請に応える能力(企業価値創造の原則)	
コミュニケーション力	自分の考えを伝える力					プロフェッショナルの意識を持つ能力、経営者の「思い」を伝え組織を動かす能力(経営者牽引の原則)、変革への本気度を示す能力(経営者のリーダーシップとコミットメントの原則)		
	相手の考えを理解する力	資質・適性を合わせる意識を持つ能力						
	共感を呼ぶ力	自己意識を持つ能力、協創意識を持つ能力、合意形成する能力、組織を超えて共創する能力(オープンマインド醸成の原則)						
A3	変革の成果をしっかりと認識し、次の成長につなげていくこと【持続的成長認識プロセス】	ヒューマンスキル	創造力	概念化力	事実から本質を見極める能力(本質追求の原則)			
				問題発見力	環境変化に敏感になる能力(環境変化洞察の原則)、ITを常に念頭に入れる能力(IT徹底活用の原則)			
				実行・実践力	俯瞰力	ITコンテンツを活用する能力、戦略と実行を合わせる能力(戦略実行整合の原則)、全体視点で考える能力(全体最適の原則)、成長を客観的に見る能力(客観的評価の原則)		
					深耕力	人間関係を構築する能力、分析・評価する能力		
					継続力	持続的な成長を目指す能力(学習と成長の原則)、変革を続け成長する能力(SPDLI経営サイクルの原則)、組織能力を高成熟度を上げる能力(学習と成長の原則)、成果に報いる能力(成長の評価の原則)		
				革新力	プロセスを改善・改革する能力、提供価値を問い続ける能力(価値創造の原則)、変化を捉え行動に移す能力(変革認識3Aの原則)、情報を見える化し活用する能力(変革のための情報共有・知識集約の原則)、社会からの要請に応える能力(企業価値創造の原則)			
				コミュニケーション力	自分の考えを伝える力	プロフェッショナルの意識を持つ能力、経営者の「思い」を伝え組織を動かす能力(経営者牽引の原則)、変革への本気度を示す能力(経営者のリーダーシップとコミットメントの原則)		
相手の考えを理解する力	資質・適性を合わせる意識を持つ能力							
共感を呼ぶ力	自己意識を持つ能力、協創意識を持つ能力、合意形成する能力、組織を超えて共創する能力(オープンマインド醸成の原則)							
B	変革の実行シナリオを作り、確実に実行・評価すること【IT経営実現領域】	B1	経営戦略全体のシナリオを作り実現すること【経営戦略プロセス】	(戦略)市場機会の評価と選定	ビジネス環境分析手法	ニーズ&ウォンツの把握、ニーズの分析と優先順位付け、マーケティング環境分析、マーケティング戦略の長所と短所、モデル(待ち行列モデル、販売反応モデル等)、ユーザーニーズの把握、価格感受性、概念、環境要因の分析、技術的環境、競合の戦略の分析、経済環境、現状課題の調査と分析、顧客に対するポジショニング分析と設定、顧客要望、購買決定プロセスの理解、購買決定者、購買行動に影響を与える要因の理解(文化的要因、社会的要因、個人的要因、心理的要因)、購買行動の理解、購買人口、差別化の検討、最適化ルーチン(微分法、数値計画法、統計的決定理論、ゲーム理論等)、財務分析、参入障壁の分析、市場セグメントの選択、市場セグメントの評価、市場と市場セグメントの理解と設定、市場の機会と脅威の発見、市場規模、市場細分化(地理的変数、人口動態変動、心理的変数、行動上の変数等)、市場調査と市場需要の測定、自社の強み分析、自社内のポジショニング分析と設定、社会情勢、需要の弾力性、需要曲線の見積もり、人口動態環境、人的資源分析、政治、製品またはサービスのライフサイクル段階の分析、製品またはサービスの優位性分析、組織分析、弾力的需要、定量的方法論の適用と実践、統計的ツールの活用(重回帰、判別分析、因子分析、クラスター分析、コンジョイント分析、多次元尺度法)、非弾力的需要、分析ツールとモデルを活用した投資分野の選定、文化的環境、法的環境、優先順位の選定		

大分類コード	タスク大分類	中分類コード	タスク中分類	スキル大分類	スキル分類	スキル項目	知識項目
				知識		ビジネス戦略と目標・評価	CSF(CriticalSuccessFactors)、IS投資評価手法、IT投資効果分析、IT評価手法、KGI(KeyGoalIndicator)、KPI(KeyPerformanceIndicator)、KT法、PEST分析、WBSIに関する知識、ギャップ分析手法、シナリオプランニング、ナレッジマネジメント、ニーズ・ウォンツ分析、バランススコアカード、ヒアリング手法、ビジネスモデリングに関する知識、ビジネス環境分析、ビジネス戦略立案、ベンチマーク、ポジショニング、リスクマネジメント、リスク分析手法、仮説構築法、企業競争力の分析手法、競合分析、業務分析手法、構造化手法、差異分析手法、成果の定量評価に関する知識、戦略マネジメントに関する知識、戦略目標、当該分野のソリューション市場に関する知識
						業界動向把握の手法	インダストリビジネス動向、技術動向、競合状況の把握、インダストリ固有業務内容の把握と活用、インダストリ別ビジネス慣行の把握と活用、インダストリ別事業環境の把握と活用、インダストリ用語、関連法規の把握と活用、業界環境と関連規制の把握、業界固有ニーズ・ウォンツの把握と活用、業界動向の把握と活用、業界内競合他社情報の把握、業界標準、業界基準、通達、最新業界動向の把握、市場分析結果の把握と活用、新規参入者の把握
						経営管理システム	CRM、ERP、SaaS、SCM(SupplyChainManagement)、SFA(SalesForceAutomation)、SOA(ServiceOrientedArchitecture)、ナレッジマネジメント、意思決定支援、企業内情報ポータル(EIP)
						経営戦略手法	3Cモデル、3C分析、5Forces、6W1H、7S、CSF(CriticalSuccessFactors)、M&A、PDCAサイクル(経営戦略立案)、PDCAサイクル(経営分析)、PPM、アウトソーシング、アライアンス、インキュベータ、エンジニアリングシステム分野とビジネスシステム分野における情報システムの活用、グループ経営、コアコンピタンス、シェアドサービス、バランススコアカード、バリューチェーン分析手法、ブルーオーシャン戦略、関連法規の理解と遵守、企業会計、企業理念、競合分析手法、競争戦略、経営管理、経営工学、経営戦略の基礎(経営戦略の理論や手法)、経営戦略の基礎(顧客の要求・要望)、経営組織(事業部制、カンパニ制、CIO、CEOほか)、差別化戦略、情報システム評価手法、情報戦略、成長マトリクス、連関手法/ロジックツリー、SWOT分析
						最新技術動向把握の手法	アプリケーションに関わる技術動向の把握、インダストリアプリケーション設計の実践、インダストリ共通アプリケーションに関する知識の活用、インダストリ固有アプリケーションに関する知識の活用、ビジネス特許に関わる技術動向の把握、業務別アプリケーション設計の実践、業務別関連技術情報の把握と活用、業務別最適プラットフォーム選定、国際標準、業界標準、最新アプリケーションパッケージ動向の把握、最新インダストリアプリケーション動向の把握、最新ファシリティ、ネットワーク製品技術動向の把握と活用、最適プラットフォーム選定、先端技術、注目技術、国内外のIT市場規模と動向の把握、最新システム管理技術動向の把握、最新セキュリティ技術動向の把握、最新データベース技術動向の把握、最新ネットワーク技術動向の把握、最新ハードウェア技術動向の把握、最新ミドルウェア技術動向の把握、最新プラットフォーム技術動向の把握、次世代のeビジネスとその発展の把握
						市場調査手法	ASP、IT業界の動向(事例)、SaaS、SOA、マクロ環境分析、仮説検証、競合分析、業務システム提案、業務パッケージ、顧客分析、市場の需要測定、市場の定義、市場機会の分析、市場全体の把握、市場調査の実施、市場調査の設計、市場調査計画の作成、市場調査目的の設定、市場動向及び他社動向の把握、市場分析、情報の収集、情報の分析、調査・分析手法、内部環境分析(自社の強みと弱みの分析)
					(戦略)システム戦略立案手法	戦略分析手法	SWOT分析、インタビュー、コンセプト・モデリング、データ・マイニング、バランス・スコアカード、ビジネス・ケース、ビジネス・モデル、ビジネス・モデル・キャンバス、ビジネス能力分析、フォーカス・グループ、プレザンテーション、プロセス・モデリング、プロセス分析、プロトタイプ、ベンダー評価、ベンチマークと市場分析、マインド・マップ、リスクの分析とマネジメント、ワークショップ、意思決定モデリング、課題トラッキング、観察、機能分解、教訓、決定分析、根本原因分析、財務分析、受け入れ基準と評価基準、組織モデリング、調査やアンケート、評価指標と重要業績評価指標(KPI)、文書分析
					(戦略)業務動向把握手法	業務動向の把握手法	インダストリ知識、慣習の把握と活用、業務引継ぎ、業務指示、業務内容、特性の把握と活用、業務別システム導入事例の把握と活用、業務別関連法規の把握と活用、業務別規制状況の把握と活用、業務別最新動向の把握と活用、業務別事業環境の把握と活用、業務別標準技術の把握と活用、社会環境の把握と活用、情報化と経営、特性の把握、活用、内部統制、汎用業務内容
				関連知識	ビジネスインダストリ	インダストリ知識	インダストリビジネス動向、インダストリビジネス動向、技術動向、競合状況の把握、インダストリ共通アプリケーションに関する知識の活用、インダストリ固有アプリケーションに関する知識の活用、インダストリ固有業務内容の把握と活用、インダストリ別ビジネス慣行の把握と活用、インダストリ別事業環境の把握と活用、インダストリ用語、関連法規の把握と活用、関連法規の把握と活用、技術動向、競合状況の把握
						エンジニアリングシステム	CAE、MRP、PDM、エンジニアリングシステムの意義と目的、生産管理システム
						ビジネスシステム	POSシステム、Web会議システム、XBRL、スマートグリッド、ユビキタスコンピューティング、医療情報システム、金融情報システム、公共情報システム、電子政府、物流情報システム、流通情報システム、IoT
						産業機器	医療機器、運輸機器/建設機器、工業制御/FA機器/産業機器、設備機器、通信設備機器、分析機器・計測機器
						民生機器	AV機器、コンピュータ周辺/OA機器、家電機器、教育・娯楽機器、業務用端末機器、個人用情報機器(携帯電話、スマートフォン、タブレット端末ほか)、民生用通信端末機器
					企業活動	経営・組織論	ABC(ActivityBasedCosting)、ABM(ActivityBasedManagement)、BCP、CSR、IR、PDCA、TQM、アード・バリュー・マネージメント、キャッシュフロー経営、グリーンIT、グループ経営、BPR(BusinessProcessReengineering)、グループ経営管理システム、コーポレートアイデンティティ、コーポレトガバナンス、コスト・効果分析、コスト・便益分析、サービス継続性管理に関する知識、バックアップ手法とその所用時間・リカバリ時間に関する知識、ヒューマンリソース(OJT、目標管理、ケーススタディ、数量労働制ほか)、リスクアセスメント、リスクマネジメント、リスク条件下・意思決定手法(期待値意思決定、期待変動および意思決定、モンテカルロ分析、決定樹、完全情報の期待値)、株式公開(IPO)、経営管理、経営組織(事業部制、カンパニ制、CIO、CEOほか)、見積もり手法(熟練者判断、類推、分割見積もり、パラメータ化手法、統計的手法)、行動科学(リーダーシップ、コミュニケーション、コミニケーション、テクニカルライティング、プレゼンテーション、ネゴエーション、モチベーションほか)、最適化分析(dominance、satisficing、lexicography)、事業継続計画の事例、人材に関する留意事項(メンタルヘルス)、人材に関する留意事項(労働法)、人材マネジメント、人材戦略(HRシステム)、人材戦略(組織構造)、想定される災害(地震、テロ等)の規模と影響範囲に関する知識、損益分岐点分析、多属性評価(無次元定量、付加的重みづけ、解析的階層プロセス)、不確実条件下・意思決定手法(LaplaceRule、MaximinRule、MaximaxRule、HurwiczRule、MinimaxRegretRule)、利得志向・意思決定分析
						会計・財務	IFRS、インフレーション、キャッシュフロー(キャッシュフロー・インスタンス、キャッシュフロー・ストリーム、キャッシュフロー・ダイアグラム)、キャッシュフロー会計、コスト、コスト算定、TOC、コスト・センタ、コスト・モデル、コントロール・プログラム、プロジェクト、プロジェクトライフサイクル、プロダクト、プロダクトライフサイクル、ポートフォリオ、リースとレンタル、価値および価格設定、価値評価(現在価値、将来価値、年当たり相当値、内部収益率、割引払い戻し期間)、課税、会計、会計基準、管理会計(原価計算)、管理会計(損益分岐点分析)、業務性計画、経済と政策、経済学、経済活動と市場原理、経済性計算、経済的効率(プロダクト複雑性、品質要求、時間的制約)、プロセス能力、チーム分散、割り込み、特徴の乱変、ツール・プログラミング、経済的生産性、計画基準期間、研究開発費とソフトウェア会計、原価、減価償却、交換および退役撤収決定、財政、財務会計、財務会計(ロス/益(貸借対照表))、財務会計(P/L(損益計算書))、財務指標、財務諸表、資金計画と資金管理、資産管理、時価主義会計、終結計画、税効果会計、損益分岐点、通貨の時間価値、提案、投資決定、年金会計、連結会計
						OR・IE	PERT/CPM、ゲーム理論、解模索戦略の設計、系統的定式化、検査手法(QC曲線、サンプリング、シミュレーションほか)、在庫問題、線形計画法(LP)、抽象化、品質管理手法(QC七つ道具、新QC七つ道具ほか)、分析手法(作業分析、PTS法、ワークサンプリング法ほか)、問題分析
						ビジネスプロセスマネジメント	5W、BPR、CTQ、DMADV、DMAIC、IGOE、SIPOC、TOC思考プロセス、カイゼン・イベント、コスト分析、サイクルタイム分析、シックス・シグマ、ドラム・バッファ・ロープ、バリューストリーム分析、プロセス・シミュレーション、リーン、継続的改善、故障モード影響分析、制約理論、総合的品質管理、適応型ケース・マネジメント、品質機能展開、付加価値分析
					創造力	問題発見力	環境変化に敏感になる能力(環境変化洞察の原則)、ITを常に念頭に入れる能力(IT徹底活用の原則)

大分類コード	タスク大分類	中分類コード	タスク中分類	スキル大分類	スキル分類	スキル項目	知識項目	
				ヒューマンスキル	実行・実践力	俯瞰力	ITコンテンツを活用する能力、戦略と実行を合わせる能力(戦略実行整合の原則)、全体視点で考える能力(全体最適の原則)、身の丈に合ったIT導入から始める能力(IT経営の成熟度の原則)、企業理念と整合させる能力(企業理念との整合の原則)、強みを認識して強化する能力(コアコンピタンスとトータルコンピタンスの原則)、内・外部資源の有効活用を図る能力(最適資源配分の原則)	
							深耕力	人間関係を構築する能力、分析・評価する能力、経営戦略と収益をリンクさせる能力(収益性の原則)
							継続力	持続的な成長を目指す能力(学習と成長の原則)
							革新力	プロセスを改善・改革する能力、提供価値を問いつける能力(価値創造の原則)、価値に基づく能力(価値前提に基づく経営の原則)、ITの可能性を引き出す能力(IT積極的活用の原則)、仕事の固定観念を捨てる能力(新たな可能性追求の原則)、業務とITの足並みをそろえる能力(業務改革・IT戦略協調の原則)
						コミュニケーション力	自分の考えを伝える力	プロフェッショナルの意識を持つ能力、経営者の「思い」を伝え組織を動かす能力(経営者牽引の原則)
							相手の考えを理解する力	資質・適性を合わせる意識を持つ能力
				共感を呼ぶ力	自己意識を持つ能力、協創意識を持つ能力、合意形成する能力			
B2	経営戦略を支える業務の改革のシナリオを作り実現すること【業務改革プロセス】			マネジメント	(戦略)市場機会の評価と選定	ビジネス環境分析手法	ニーズ&ウォンツの把握、ニーズの分析と優先順位付け、マーケティング環境分析、マーケティング戦略の長所と短所、モデル(待ち行列モデル、販売反応モデル等)、ユーザーニーズの把握、価格感受性、概念、環境要因の分析、技術的環境、競合の戦略の分析、経済環境、現状課題の調査と分析、顧客に対するポジショニング分析と設定、顧客要望、購買決定プロセスの理解、購買決定者、購買行動に影響を与える要因の理解(文化的要因、社会的要因、個人的要因、心理的要因)、購買行動の理解、購買人口、差別化の検討、最適化ルーチン(微分法、数値計画法、統計的決定理論、ゲーム理論等)、財務分析、参入障壁の分析、市場セグメントの選択、市場セグメントの評価、市場と市場セグメントの理解と設定、市場の機会と脅威の発見、市場規模、市場細分化(地理的変数、人口動態変動、心理的変数、行動上の変数等)、市場調査と市場需要の測定、自社の強み分析、自社内のポジショニング分析と設定、社会情勢、需要の弾力性、需要曲線の見積り、人口動態環境、人的資源分析、政治、製品またはサービスのライフサイクル段階の分析、製品またはサービスの優位性分析、組織分析、強力的需要、定量的方法論の適用と実践、統計的ツールの活用(重回帰、判別分析、因子分析、クラスター分析、コンジョイント分析、多次元尺度法)、非弾力的需要、分析ツールとモデルを活用した投資分野の選定、文化的環境、法的环境、優先順位の選定	
						ビジネス戦略と目標・評価	CSF(CriticalSuccessFactors)、IS投資評価手法、IT投資効果分析、IT評価手法、KGI(KeyGoalIndicator)、KPI(KeyPerformanceIndicator)、KT法、PEST分析、WBSIに関する知識、ギャップ分析手法、シナリオプランニング、ナレッジマネジメント、ニーズ・ウォンツ分析、バランススコアカード、ヒアリング手法、ビジネスモデリングに関する知識、ビジネス環境分析、ビジネス戦略立案、ベンチマーク、ポジショニング、リスクマネジメント、リスク分析手法、仮説構築法、企業競争力の分析手法、競合分析、業務分析手法、構造化手法、差異分析手法、成果の定量評価に関する知識、戦略マネジメントに関する知識、戦略目標、当該分野のソリューション市場に関する知識	
						業界動向把握の手法	インダストリビジネス動向、技術動向、競合状況の把握、インダストリ固有業務内容の把握と活用、インダストリ別ビジネス慣行の把握と活用、インダストリ別事業環境の把握と活用、インダストリ用語、関連法規の把握と活用、業界環境と関連規制の把握、業界固有ニーズ・ウォンツの把握と活用、業界動向の把握と活用、業界内競合他社情報把握、業界標準、業界基準、通達、最新業界動向の把握、市場分析結果の把握と活用、新規参入者の把握	
						経営管理システム	CRM、ERP、SaaS、SCM(SupplyChainManagement)、SFA(SalesForceAutomation)、SOA(ServiceOrientedArchitecture)、ナレッジマネジメント、意思決定支援、企業内情報ポータル(EIP)	
						経営戦略手法	3Cモデル、3C分析、5Forces、6W1H、7S、CSF(CriticalSuccessFactors)、M&A、PDCAサイクル(経営戦略立案)、PDCAサイクル(経営分析)、PPM、アウトソーシング、アライアンス、インキュベータ、エンジニアリングシステム分野とビジネスシステム分野における情報システムへの活用、グループ経営、コアコンピタンス、シェアードサービス、バランススコアカード、バーチャル分析手法、ブルーオーシャン戦略、関連法規の理解と遵守、企業会計、企業理念、競合分析手法、競争戦略、経営管理、経営工学、経営戦略の基礎(経営戦略の理論や手法)、経営戦略の基礎(顧客の要求・要望)、経営組織(事業部制、カンパニ制、CIO、CEOほか)、差別化戦略、情報システム評価手法、情報戦略、成長マトリクス、連関図手法/ロジックツリー、SWOT分析	
						最新技術動向把握の手法	アプリケーションに関わる技術動向の把握、インダストリアルアプリケーション設計の実践、インダストリ共通アプリケーションに関する知識の活用、インダストリ固有アプリケーションに関する知識の活用、ビジネス特許に関わる技術動向の把握、業務別アプリケーション設計の実践、業務別関連技術情報把握の把握と活用、業務別最適プラットフォーム選定、国際標準、業界標準、最新アプリケーションパッケージ動向の把握、最新インダストリアルアプリケーション動向の把握、最新ファンクショナル、ネットワーク製品技術動向の把握と活用、最適プラットフォーム選定、先端技術、注目技術、国内外のIT市場規模と動向の把握、最新システム管理技術動向の把握、最新セキュリティ技術動向の把握、最新データベース技術動向の把握、最新ネットワーク技術動向の把握、最新ハードウェア技術動向の把握、最新ミドルウェア技術動向の把握、最新プラットフォーム技術動向の把握、次世代のeビジネスとその発展の把握	
						(戦略)システム戦略立案手法	システム化戦略手法	ANSI、バランススコアカード、CRUD分析、CSF(CriticalSuccessFactor)、EA(エンタープライズアーキテクチャ)、ER図、IEC、IEEE、IETF、ISO、ITU、ITポートフォリオモデル、JSA、KGI(KeyGoalIndicator)、KJ法、KPI(KeyPerformanceIndicator)、MECE(ミーシー)、W3C、システムライフサイクル、システム化戦略の策定、データフローダイアグラム(DFD)、ビジネスプロセスモデリング、ビジネスプロセスリエンジニアリング(BPR)、ビジネスモデル、プレスリリース、プログラムマネジメント、ベンダーの新製品情報、モデリング、ユーザーのビジョン、ゴール、ビジネス戦略の把握、リスク分析手法、業界団体、業務パッケージを利用したシステム化戦略策定、業務モデル、業務分析手法、経済産業省などの公的機関の調査報告(特許動向など)、情報システムモデル、情報資産の識別方法(情報・データ、システム、人材、文書)、情報資産の評価方法(機密性、完全性、可用性に関する重要性、致命度、危険度)、情報資産台帳の内容、先進事例、全体最適化、標準化団体が主催する会合等への参加、標準化団体の発行物
						システム活用促進・評価	BIツールに関する知識、情報システムモデル、IT活用教育の事例、PDCAサイクル(定期的レビュー、評価のフィードバックとアクション)、システム廃棄、システム利用実態の評価・検証、チェンジマネジメント、デジタルデバイス、データの戦略的活用事例、データ活用、ナレッジマネジメント、バランススコアカード、ヒアリング手法、ビジネスプロセスリエンジニアリング(BPR)、ビジネスモデル、プロジェクト・チームのマネジメント、モチベーションマネジメント、仮説構築法、業務モデル、業務改善、業務分析手法、原因分析(ブレインストーミング、アンケート調査、資料調査、面接調査、各種データ収集、分析、加工)、構造化手法、差異分析手法、情報システムユーザー利用実態の調査(モニタリング、目標達成度)、情報リテラシ、情報リテラシ教育事例、人材育成計画、統計解析手法、評価指標(KGI-KPI)の評価方法、評価制度(評価指標)、普及啓発、分析手法(作業分析、PTS法、ワークサンプリング法ほか)、問題解決手法、CSF(CriticalSuccessFactors)	
						ソリューションビジネス	ASP、SOA、クラウドコンピューティング(SaaS、PaaS、IaaSほか)、ソリューションビジネスの種類とサービス形態、業務パッケージ、問題解決支援	
						業務プロセス	BPO、SFA、オフショア、ビジネスプロセスマネジメント(BPM)、ビジネスプロセスリエンジニアリング(BPR)、ビジネスプロセス表記手法、ビジネスモデル、業務モデル、業務改善、業務設計、業務分析、製品・サービスのライフサイクル、製品のライフサイクル	
						情報システム戦略	ASP(ApplicationServiceProvider)、BPO(BusinessProcessOutsourcing)、バランススコアカード、ITポートフォリオモデル、IT業界の動向(事例)、IT経営力指標、IT投資マネジメント、エンタープライズアーキテクチャ(EA)、クラウドライセンス契約に関する知識、コントロールフレームワーク、システムオーナー、システムライフサイクル、システム構造、システム方式に関する知識(ハードウェア・ソフトウェア・手作業の機能分割、ハードウェア方式、ソフトウェア方式、アプリケーション方式、IS企画)、ソフトウェア契約に関する知識、データオーナー、ビジネスプロセスマネジメント(BPM)、ビジネスプロセスリエンジニアリング(BPR)、ビジネスプロセス表記手法、ビジネスモデル、ビジネス環境分析手法、プログラムマネジメント、プロセスフレームワーク、ベンチマーク、ライセンス契約に関する知識、リスク分析手法、下請法、開発投資対効果、業務モデル、業務設計、業務分析手法、情報システムモデル、情報システム戦略の意義と目的、情報システム戦略実行マネジメント、情報システム戦略評価、情報化推進体制、情報化投資計画、正味現在価値法(NPV:NetPresentValue)、製品知識製品動向(事例)、全体最適化、全体最適化計画、全体最適化方針、単純回収期間法(Pay-backPeriodmethod)、投資資本利益率(ROI:ReturnOnInvestment)、品質統制(品質統制フレームワーク)	

大分類コード	タスク大分類	中分類コード	タスク中分類	スキル大分類	スキル分類	スキル項目	知識項目
						戦略分析手法	SWOT分析、インタビュー、コンセプト・モデリング、データ・マイニング、バランス・スコアカード、ビジネス・ケース、ビジネス・モデル、ビジネス・モデル・キャンパス、ビジネス能力分析、フォーカス・グループ、プレーンストミーング、プロセス・モデリング、プロセス分析、プロトタイプ、ベンダー評価、ベンチマークと市場分析、マインド・マップ、リスクの分析とマネジメント、ワークショップ、意思決定モデリング、課題トラッキング、観察、機能分解、教訓、決定分析、根本原因分析、財務分析、受け入れ基準と評価基準、組織モデリング、調査やアンケート、評価指標と重要業績評価指標(KPI)、文書分析
					(戦略)業務動向把握手法	業務動向の把握手法	インダストリー知識、慣習の把握と活用、業務引継ぎ、業務指示、業務内容、特性の把握と活用、業務別システム導入事例の把握と活用、業務別関連法規制の把握と活用、業務別規制状況の把握と活用、業務別最新動向の把握と活用、業務別事業環境の把握と活用、業務別標準技術の把握と活用、社会環境の把握と活用、情報化と経営、特性の把握、活用、内部統制、汎用業務内容
					(企画)システム企画立案手法	システム化計画	ISO20000、ITIL(サービデリバリー・キャパシティ管理、ITサービス継続性管理、可用性管理)、ITIL(サービデリバリー・サービレベル管理、ITサービス財務管理)、ITポートフォリオ、システムライフサイクル、システム化基本方針、システム化構想、チェンジマネジメント、バランススコアカード、プロジェクト推進体制、改善データ収集、開発投資対効果、業務改善技法(ERD、DFD、ワークフロー、ビジネスプロセスモデリングなど)、業務改善定着(業務改善計画、業務改善体制、実行管理、ユーザーITスキル向上、TQCなど)、原因分析(プレーンストミーング、アンケート調査、資料調査、面接調査など)、資産価値評価(ROI、現在価値分析)、情報システムユーザー実態の調査(モニタリング、目標達成度)、情報システム導入リスク分析、全体開発スケジュール、投資の意思決定法(PBP、DCF法ほか)、問題解決技法(IE分析技法、OC曲線、管理図、KJ法、図解、グラフ、デシジョンテーブルなど)、要員教育計画
						システム企画立案手法	BPMM、DCF法、DFD、DMM、ERD、ISO9000シリーズ、ITIL(InformationTechnologyInfrastructureLibrary)、KJ法、MN法、UML、ライアンス、コーポレートガバナンス、システム運用管理、システム化計画の策定、システム化戦略の策定、システム開発技術、システム開発技法、システム技術、システム計画書の記述仕様標準、システム信頼性、システムホルダー・マネジメント、ソフトウェアライフサイクルプロセス(SLCP)、ソフトウェア開発手法、ソフトウェア製品の理解、ソフトウェア製品開発計画の策定、ソフトウェア製品企画の策定、ソフトウェア製品企画の提案、ソフトウェア品質測定手法、ソフトウェア保守の形態に関する知識、データモデリング、データ設計、データ分析、テスト手法、バランススコアカード、バリウチェーン分析手法、パレト図、ヒアリング手法、ビジネスプロセス、ビジネスプロセスマネジメント(BPM)、ビジネスプロセスモデリング、ビジネスプロセス分析・表記手法、ビジネスモデル、ビジネス環境分析手法、プログラムマネジメント、プロジェクト管理、プロジェクト計画策定手法、プロジェクト評価手法、プロセス成熟度、ベストプラクティス、ベンチマーク・マーケティング、ユーザー、経営者の要望把握、リスクマネジメント、リスク定量評価指標、リスク分析、リスク分析手法、開発プロジェクト体制構築に関する知識、開発環境稼働状況管理に関する知識、開発環境構築に関する知識、開発投資対効果、開発方法論全般、管理図、関係法規(知的所有権関連法規、労働関係法規など)、競合分析手法、業務システム提案、業務パッケージ、業務フロー図、業務プロセス分析、業務モデル、業務設計、業務分析手法、経営管理の知識、経営組織(事業部制、カンパニ制、CIO、CEOほか)、経営分析手法、建築基準法第二章建築物の敷地、見積り手法、原因結果分析、顧客管理、顧客要求仕様の理解、構造及び建築設備、国際標準・国内標準、国際標準ISO/IEC20000、差異分析手法、事業戦略、実行計画策定手法、消防法第二章火災の予防・第四章消防の設備等、情報システムモデル、情報システム評価手法、情報セキュリティ、情報化推進体制、情報化投資計画、生産性評価手法、戦略目標、全体開発スケジュール立案に関する知識、全体最適化、組織能力評価手法、組織論一般、知的所有権関連法規(著作権法、特許法、不正競争防止法など)、総合マネジメント、特要件要因図、内部統制、標準化、評価指標(KGI・KPI)の把握手法・タイミング、評価指標(KGI・KPI)の評価方法、品質管理、品質計画、品質保証、目的機能展開、問題解決手法、労働関係法規
						技術問題解決手法	技術問題解決手法の活用と実践
						調達計画・実施	RFC(RequestforChange)、アウトソーシングに関する知識、アンケート技法に関する知識、インソーシング/アウトソーシング、サポート、ソフトウェア、ソフトウェアのサプライチェーンマネジメント、ソフトウェア資産管理、テスト/評価/ベンチマーク、ハードウェア、リスクライシスの事例、リスク対策に関する知識(回避予防軽減移転保有)、契約/RFP(RequestforProposal)、見積書、見積書の記述項目・現行環境分析に関する知識、構築/購入、情報機器導入計画の記述項目、新情報機器要件の把握に関する知識、著作権管理に関する知識、調達の条件、調達の条件に関する知識、調達の要求事項、調達に関する知識、調達リスク分析、調達計画、調達選定、調達選定に関する知識、提案依頼書(RFP)、提案書、提案書の記述項目、提案評価の際の評価項目および選定基準に関する知識、提案評価基準、特許申請に関する知識、内外作基準、内外作基準に関する知識、秘密保持契約(NDA)、品質
					(実装)見積り手法	規模の見積り手法	スケジュール最適化(クリティカルパス、PERT、ガントチャートなど)、パラメトリック・モデリング、ファンクションポイント法(FP試算法、FP概算法、IFPUG法)、プログラム規模見積り(LOC法)、ボトムアップ見積り、規模の見積り(LOC/FunctionPoint/COCOMOなど)、係数見積り(基準値法、COCOMO)、熟練者の判定として形式化された経験、類推見積り(類推法、デルファイ法)
					(支援活動)チェンジマネジメント手法	協働の管理手法	ステークホルダー・リスト、マップ、ベルヌゾ、リスクの分析とマネジメント、協働ゲーム、教訓
						ビジネスソリューション変更管理手法	SWOT分析、インタビュー、スコープ・モデリング、データ・フロー図(DFD)、データ・モデリング、バランス・スコアカード、ビジネス・ケース、ビジネス・モデル・キャンパス、ビジネス・ルール分析、ビジネス能力分析、フォーカス・グループ、プレーンストミーング、プロセス・モデリング、ベンダー評価、ベンチマークと市場分析、マインド・マップ、ユーザー・ストーリー、ユースケースとシナリオ、機能分解、教訓、決定分析、見積り、財務分析、組織モデリング、文書分析、ワークショップ
						ソリューション価値測定手法	インタビュー、データ・マイニング、ビジネス・ケース、ベンダー評価、ベンチマークと市場分析、ユースケースとシナリオ、リスクの分析とマネジメント、観察、決定分析、根本原因分析、受け入れ基準と評価基準、調査やアンケート、非機能要求分析、評価指標と重要業績評価指標(KPI)、フォーカス・グループ、プロトタイプ
				テクノロジ	(システム)クラウドコンピューティングの基礎技術	クラウドコンピューティング基礎	IAAS、PAAS、SAAS、ハイブリッドクラウド、パブリッククラウド、プライベートクラウド
					クラウドコンピューティング利用	3つの技術分野と5つの非機能要件、アイデンティティ管理、クラウドコンピューティングにおける各種の標準、クラウドコンピューティングの使用をサポートする、クラウドサービスに求められるもの、クラウドサービスの特殊性、クラウドと社内システムとの連携、セキュリティとクラウド、ビジネスケース、導入の評価	
					(開発)システムアーキテクチャ技術	システム要件定義	アクセス統合設計に関する知識、アプリケーション開発ツールに関する知識、アプリケーション開発に関連する規格及びモデルに関する知識、アプリケーション構築の知識、アプリケーション統合設計に関する知識、アプリケーション保守設計の知識、インシデント管理問題管理、変更管理プロセス設計に関する知識、キャンパシ・設計に関する知識、キャンパシ・要件定義に関する知識、システムの評価と改善に関する知識、システム化戦略策定の知識、システム管理運用設計に関する知識、システム分析と要求定義(機能要求/非機能要求の明確化)、システム分析と要求定義(要求定義、システム分析と要求定義(要求分析手法)、システム要件定義のレビュー(システム要件のレビュー)、システム要件のレビュー)、システム要件定義(機能、能力、業務)と利用者との要件、設計制約条件、適格性確認要件ほか)、シミュレーションに関する知識、セキュリティ設計に関する知識、セキュリティ設計の知識、ソフトウェア開発に關連する規格及びモデルに関する知識、ソフトウェア製造の知識に関する知識、チェックリストに関する知識、データベースアクセス設計に関する知識、データモデリングに関する知識、テストに関する知識に関する知識、デバッグに関する知識、トランザクション設計の知識、ユーザの分析と優先順位付けに関する知識、ネットワークに関する知識、ネットワーク設計に関する知識、パフォーマンス設計に関する知識、バリウチェーン分析に関する知識、プラットフォーム設計(OS、ミドルウェアなど)に関する知識、プラットフォーム設計に関する知識、プラットフォーム選定に関する知識、プロセス統合設計に関する知識、プロダクトポートフォリオマネジメント(PPM)モデル、マルチステークホルダーの明確化に関する知識、ユーザーインターフェース統合設計に関する知識、ユーザー要求、プロジェクト範囲、目的の明確化に関する知識、移行要件の記述項目、運用、操作要件の記述項目、可用性設計に関する知識、開発ツール評価技術、開発環境要件の記述項目、開発工程に関する知識(サブプロセス、メンバメント、要員配置、ツール、成果物など)、外部設計知識に関する知識、拡張性設計の知識、拡張性要件定義に関する知識、監視方式に関する知識、機能モデルの記述項目、技術要件の記述項目、現行IT環境分析に関する知識、現行業務フローの記述項目、構成管理ツールに関する知識、資源要求の調査に関する知識、事業ライフサイクル(導入期、成長期、成熟期、衰退期)モデル、情報システム調査分析手法、情報システム評価手法、状況レビュー会議の運営に関する知識、新機能要件の記述項目、新業務フローの記述項目、性能設計の知識、性能要件定義に関する知識、正常、異常時の運用方式と運用データ設計に関する知識、内部設計知識に関する知識、品質要件の記述項目、物理データ構造設計に関する知識、文書レビューに関する知識、変更管理プロセス設計に関する知識、保守の知識に関する知識、目標の設定に関する知識、問題、課題の明確化に関する知識、要求の獲得と調整(マインドマップによる要求獲得)、要求の獲得と調整(ユースケース図による要求整理)、要求事項評価に関する知識、要件の定義と文書化に関する知識、要件調査の実施に関する知識、要件定義に関する知識、論理データ構造の知識
						システムインテグレーションとアーキテクチャ	インフラストラクチャ、ミドルウェア、プラットフォーム、エンタープライズアーキテクチャ(EA)、コンポーネント、インタフェース、インテグレーション、システムアーキテクチャ、テスト/評価/ベンチマーク、技法:データウェアハウス、拡張フレームワーク、ラッパー、グルー、ファサード、情報アーキテクチャ、大組織の統合アプリケーション(CRM、ERP)、表記/モデリング
						IT基盤構築プロセス	システムの評価と改善、システム化要件定義、システム計画策定、システム方式設計、セキュリティ監査、セキュリティ方針と対策基準の策定、移行設計、構築とテスト、障害管理、保守

大分類コード	タスク大分類	中分類コード	タスク中分類	スキル大分類	スキル分類	スキル項目	知識項目
				知識		システム方式設計	ATM(AsynchronousTransferMode)、フレームリレーなど回線に関する技術、キャパシティ要件定義に関する知識、システムの最上位の方式確立(ハードウェア/ソフトウェア/手作業の機能分割、ハードウェア方式設計、ソフトウェア方式設計、システム処理方式設計、データベース方式設計ほか)、システム運用に関する知識、システム運用管理方式に関する知識、システム監視(稼働監視、障害監視、性能監視、閾値監視)に関する知識、システム管理に関する知識、システム管理運用設計に関する知識、システム基盤テスト戦略、計画の記述項目、システム基盤移行戦略、計画の記述項目、システム基盤設計ツールに関する知識、システム基盤設計技法、システム構成設計技術、システム方式に関する知識(ハードウェア/ソフトウェア/手作業の機能分割、ハードウェア方式、ソフトウェア方式、アプリケーション方式・IT基盤構築・維持・管理)、システム方式の評価、ジョブ管理に関する知識、セキュリティ設計に関する知識、ハードウェアとソフトウェア間の機能および性能分担の決定(システムのハードウェア構成の検討)、ハードウェアとソフトウェア間の機能および性能分担の決定(ハードウェア/ソフトウェア間の機能/性能分担の検討)、ハードウェアとソフトウェア間の機能および性能分担の決定(実現可能性の検証)、ハードウェアやソフトウェアの構成管理に関する知識、バックアップとリカバリに関する知識、バックアップリカバリ方式に関する知識、パフォーマンス計測技術、パフォーマンス設計に関する知識、パフォーマンス設計、プラットフォーム設計、プロジェクトスキームの記述書の項目、リスクの評価技術、リスク識別技術、可用性設計に関する知識、実現可能性の検証とデザインレビュー(実現可能性検証)、信頼性実現技術、性能設計技術(性能・容量を考慮した設計技術および見積り技術)
					ビジネスインダストリ	インダストリ知識	インダストリビジネス動向、インダストリビジネス動向、技術動向、競合状況の把握、インダストリ共通アプリケーションに関する知識の活用、インダストリ固有アプリケーションに関する知識の活用、インダストリ固有業務内容の把握と活用、インダストリ別ビジネス慣行の把握と活用、インダストリ別事業環境の把握と活用、インダストリ用語、関連法規の把握と活用、関連法規の把握と活用、技術動向、競合状況の把握
						エンジニアリングシステム	CAE、MRP、PDM、エンジニアリングシステムの意義と目的、生産管理システム
						ビジネスシステム	POSシステム、Web会議システム、XBRL、スマートグリッド、ユビキタスコンピューティング、医療情報システム、金融情報システム、公共情報システム、電子政府、物流情報システム、流通情報システム、IoT
						産業機器	医療機器、運輸機器/建設機器、工業制御/FA機器/産業機器、設備機器、通信設備機器、分析機器・計測機器
						民生機器	AV機器、コンピュータ周辺/OA機器、家電機器、教育・娯楽機器、業務用端末機器、個人用情報機器(携帯電話、スマートフォン、タブレット端末ほか)、民生用通信端末機器
					企業活動	経営・組織論	ABC(ActivityBasedCosting)、ABM(ActivityBasedManagement)、BCP、CSR、IR、PDCA、TQM、アーンド・バリュー・マネージメント、キャッシュフロー経営、グリーンIT、グループ経営、BPR(BusinessProcessReengineering)、グループ経営管理システム、コーポレートアイデンティティ、コーポレートガバナンス、コスト・効果分析、コスト・便益分析、サービス継続性管理に関する知識、バックアップ手法とその所用時間・リカバリ時間に関する知識、ヒューマンリソース(OJT、目標管理、ケーススタディ、裁量労働制ほか)、リスクアセスメント、リスクマネジメント、リスク条件下・意思決定手法(期待価値意思決定、期待変動および意思決定、モンテカルロ分析、決定樹、完全情報の期待価値)、株式公開(IPO)、経営管理、経営組織(事業部制、カンパニ制、CIO、CEOほか)、見積り手法(熟練者判断、類推、分割見積り、パラメータ化手法、統計的手法)、行動科学(リーダーシップ、コミュニケーション、テクニカルライティング、プレゼンテーション、ネゴシエーション、モチベーションほか)、最適化分析(dominance、satisficing、lexicography)、事業継続計画の事例、人材に関する留意事項(労働法)、人材に関する留意事項(労働法)、人材マネジメント、人材戦略(HRシステム)、人材戦略(組織構造)、想定される災害(地震、テロ等)の規模と影響範囲に関する知識、損益分岐点分析、多属性評価(無次元定量化、付加的重みづけ、解析的階層プロセス)、不確実条件下・意思決定手法(LaplaceRule、MaximinRule、MaximaxRule、HurwiczRule、MinimaxRegretRule)、利得志向・意思決定分析
						会計・財務	IFRS、インフレーション、キャッシュフロー(キャッシュフロー・インスタンス、キャッシュフロー・ストリーム、キャッシュフロー・ダイアグラム)、キャッシュフロー会計、コスト、コスト算定、TOC、コスト・センタ、コスト・モデル、コントロールング、プログラム、プロジェクト、プロジェクトライフサイクル、プロダクト、プロダクトライフサイクル、ポートフォリオ、リースとレンタル、価値および価格設定、価値評価(現在価値、将来価値、年当たり相当値、内部収益率、割引払い戻し期間)、課税、会計、会計基準、管理会計、管理会計(原価計算)、管理会計(損益分岐点分析)、業務性計量、経済と政策、経済学、経済活動と市場原理、経済性計算、経済的効率(プロダクト複雑性、品質要求、時間的制約)、プロセス能力、チーム分散、割り込み、特徴の乱変化、ツール・プログラミング)、経済的生産性、計画基準期間、研究開発費とソフトウェア会計、原価、減価償却、交換および撤退撤収決定、財政、財務会計、財務会計(B/S(貸借対照表))、財務会計(P/L(損益計算書))、財務指標、財務諸表、資金計画と資金管理、資産管理、時価主義会計、終結計算、税効果会計、損益分岐点、通貨の時間価値、提案、投資決定、年金会計、連結会計
						OR・IE	PERT/CPM、ゲーム理論、解模索戦略の設計、系統的定式化、検査手法(QC曲線、サンプリング、シミュレーションほか)、在庫問題、線形計画法(LP)、抽象化、品質管理手法(QC七つ道具、新QC七つ道具ほか)、分析手法(作業分析、PTS法、ワークサンプリング法ほか)、問題分析
						ビジネスプロセスマネジメント	5W、BPR、CTQ、DMADV、DMAIC、IGOE、SIPOC、TOC思考プロセス、カイゼン・イベント、コスト分析、サイクルタイム分析、シックス・シグマ、ドラマ・パッパ・ロープ、バリュー・ストリーム分析、プロセス・シミュレーション、リーン、継続的改善、故障モード影響分析、制約理論、総合的品質管理、適応型ケース・マネジメント、品質機能展開、付加価値分析
				ヒューマンスキル	創造力	問題発見力	環境変化に敏感になる能力(環境変化洞察の原則)、ITを常に念頭に入れる能力(IT徹底活用原則)
					実行・実践力	俯瞰力	ITCコンテンツを活用する能力、戦略と実行を合わせる能力(戦略実行整合の原則)、全体視点で考える能力(全体最適の原則)、身の丈に合ったIT導入から始める能力(IT経営の成熟度の原則)、常に変革の目的に立ち戻る能力(変革目的と全体最適確保の原則)
						深耕力	人間関係を構築する能力、分析・評価する能力、経営戦略と収益をリンクさせる能力(収益性の原則)
						継続力	持続的な成長を目指す能力(学習と成長の原則)、改善・改革を一時的な対応で終わらせない能力(継続的改善・改革の原則)
						革新力	プロセスを改善・改革する能力、提供価値を問いつける能力(価値創造の原則)、価値に基づく能力(価値前提に基づく経営の原則)、ITの可能性を引き出す能力(IT積極的活用の原則)、仕事の固定観念を捨てる能力(新たな可能性追求の原則)、業務とITの足並みをそろえる能力(業務改革・IT戦略協調の原則)、新しい事業に積極的にチャレンジする能力(新事業へのチャレンジの原則)
						コミュニケーション力	自分の考えを伝える力
						相手の考えを理解する力	資質・適性を合わせる意識を持つ能力
						共感を呼ぶ力	自己意識を持つ能力、協創意識を持つ能力、合意形成する能力
B3	経営戦略を支えるIT戦略のシナリオを作り実現すること【IT戦略プロセス】			(戦略)システム戦略立案手法	システム化戦略手法	ANSI、バランススコアカード、CRUD分析、CSF(CriticalSuccessFactor)、EA(エンタープライズアーキテクチャ)、ER図、IEC、IEEE、IETF、ISO、ITU、ITポートフォリオモデル、JSA、KGI(KeyGoalIndicator)、KJ法、KPI(KeyPerformanceIndicator)、MECE(ミーシー)、W3C、システムライフサイクル、システム化戦略の策定、データフローダイアグラム(DFD)、ビジネスプロセスモデリング、ビジネスプロセスリエンジニアリング(BPR)、ビジネスモデル、プレスリリース、プログラムマネジメント、ベンダーの新製品情報、モデリング、ユーザのビジョン、ゴール、ビジネス戦略の把握、リスク分析手法、業界団体、業務パッケージを利用したシステム化戦略策定、業務モデル、業務分析手法、経済産業省などの公的機関の調査報告(特許動向など)、情報システムモデル、情報資産の識別方法(情報・データ、システム、人材、文書)、情報資産の評価方法(機密性、完全性、可用性に関する重要性、致命度、危険度)、情報資産台帳の内容、先進事例、全体最適化、標準化団体が主催する会合等への参加、標準化団体の発行者	

大分類コード	タスク大分類	中分類コード	タスク中分類	スキル大分類	スキル分類	スキル項目	知識項目	
ソフトウェア						システム活用促進・評価	BIツールに関する知識、情報システムモデル、IT活用教育の事例、PDCAサイクル(定期的レビュー、評価のフィードバックとアクション)、システム廃棄、システム利用実態の評価・検証、チェンジマネジメント、デジタルディバイド、データの戦略的活用事例、データ活用、ナレッジマネジメント、バランススコアカード、ヒアリング手法、ビジネスプロセスリエンジニアリング(BPR)、ビジネスモデル、プロジェクト・チームのマネジメント、モチベーションマネジメント、仮説構築法、業務モデル、業務改善、業務分析手法、原因分析(ブレーンストーミング、アンケート調査、面接調査、資料調査、面接調査、各種データ収集、分析、加工)、構造化手法、差異分析手法、情報システムユーザー利用実態の調査(モニタリング、目標達成度)、情報リテラシー教育事例、人材育成計画、統計解析手法、評価指標(KGI・KPI)の評価方法、評価制度(評価指標)、普及啓発、分析手法(作業分析、PTS法、ワークサンプリング法ほか)、問題解決手法、CSF(CriticalSuccessFactors)	
						ソリューションビジネス	ASP、SOA、クラウドコンピューティング(SaaS、PaaS、IaaSほか)、ソリューションビジネスの種類とサービス形態、業務パッケージ、問題解決支援	
						業務プロセス	BPO、SFA、オフショア、ビジネスプロセスマネジメント(BPM)、ビジネスプロセスリエンジニアリング(BPR)、ビジネスプロセス表記手法、ビジネスモデル、業務モデル、業務改善、業務設計、業務分析、製品・サービスのライフサイクル、製品のライフサイクル	
						現行システムの調査・分析手法	IT価値の定義、IT価値管理のフレームワーク構築、エンタープライズアーキテクチャ(EA)、ニーズの分析と優先順位付け、企業モデル、業務モデル、現行IT環境分析、情報システムモデル、情報システム評価手法、新規技術要件の把握、問題点と機会の認識(例:サービスの要求、計画のプロセス)、要求定義と仕様化	
						事業戦略の把握・分析の手法	IT予算化状況の把握、KJ法、SWOT分析手法、エンタープライズアーキテクチャ(EA)、コアコンピタンス、コーピング、ステークホルダー・マネジメントに関する知識、バリューチェーン分析手法、ヒアリング、ビジネスプロセスマネジメント(BPM)、ビジネスプロセスモデリング、ビジネスプロセスリエンジニアリング(BPR)、ビジネスプロセス分析・表記手法、ビジネスモデル、リスクマネジメントに関する知識、因果関係分析、環境分析のツールや手法に関する知識、企業理念、競争戦略、業務モデル、業務設計、業務分析手法、経営管理、経営戦略の把握、経営全般に関する知識、経営組織、経営に関する知識、顧客のIT戦略の把握、差異分析手法、事業戦略の把握、組織全体の経営・事業運用に関する知識、当該事業に関する知識	
						情報システム戦略	ASP(ApplicationServiceProvider)、BPO(BusinessProcessOutsourcing)、バランススコアカード、ITポートフォリオモデル、IT業界の動向(事例)、IT経営指標、IT投資マネジメント、エンタープライズアーキテクチャ(EA)、クロスライセンス契約に関する知識、コントロールフレームワーク、システムオーナー、システムライフサイクル、システム構造、システム方式に関する知識(ハードウェア・ソフトウェア・手作業の機能分割、ハードウェア方式、ソフトウェア方式、アプリケーション方式・IS企画)、ソフトウェア契約に関する知識、データオーナー、ビジネスプロセスマネジメント(BPM)、ビジネスプロセスリエンジニアリング(BPR)、ビジネスプロセス表記手法、ビジネスモデル、ビジネス環境分析手法、プログラムマネジメント、プロセスフレームワーク、ベンチマーク、ライセンス契約に関する知識、リスク分析手法、下請法、開発投資対効果、業務モデル、業務設計、業務分析手法、情報システムモデル、情報システム戦略の意義と目的、情報システム戦略実行マネジメント、情報システム戦略評価、情報化推進体制、情報化投資計画、NPV:NetPresentValue)、製品知識製品動向(事例)、全体最適化、全体最適化計画、全体最適化方針、単純回収期間法(Pay-backPeriodmethod)、投資資本利益率(ROI:ReturnOnInvestment)、品質統制(品質統制フレームワーク)	
						(戦略)コンサルティング手法	コンサルティング手法	インタビュの実施、コミュニケーション、ネゴシエーションの実施、コンサルティングメソッドの比較と分析、選定と適用、コンサルティング技術の活用、セッションの運営、データ収集、データ分析、ビジネスプロセス分析、設計技法、プロセスの定義と実施、仮説設定、検証、顧客リレーションの確立、維持、成果物の定義と作成、報告書の作成
						(企画)システム企画立案手法	システム化計画	ISO20000、ITIL(サービスデリバリー:キャパシティ管理、ITサービス継続性管理、可用性管理)、ITIL(サービスデリバリー:サービスレベル管理、ITサービス財務管理)、ITポートフォリオ、システムライフサイクル、システム化基本方針、システム化構想、チェンジマネジメント、バランススコアカード、プロジェクト推進体制、改善データ収集、開発投資対効果、業務改善技法(ERD、DFD、ワークフロー、ビジネスプロセスモデリングなど)、業務改善定着(業務改善計画、業務改善体制、実行管理、ユーザースキル向上、TQCなど)、原因分析(ブレーンストーミング、アンケート調査、資料調査、面接調査など)、資産価値評価(ROI、現在価値分析)、情報システムユーザー利用実態の調査(モニタリング、目標達成度)、情報リテラシー教育事例、人材育成計画導入リスク分析、全体開発スケジュール、投資の意思決定法(PBP、DCF法ほか)、問題解決技法(IE分析技法、OC曲線、管理図、KJ法、図解、グラフ、デシジョンテーブルなど)、要員教育計画
							システム企画立案手法	BPMN、DCF法、DFD、DMM、ERD、ISO9000シリーズ、ITIL(InformationTechnologyInfrastructureLibrary)、KJ法、MN法、UML、アライアンス、コーポレートガバナンス、システム運用管理、システム化計画の策定、システム化戦略の策定、システム開発技術、システム開発方法論、システム技術、システム計画書の記述形式標準、システム信頼性、ステークホルダー・マネジメント、ソフトウェアライフサイクルプロセス(SLCP)、ソフトウェア開発手法、ソフトウェア製品の投資、損益モデルの理解、ソフトウェア製品の理解、ソフトウェア製品企画の策定、ソフトウェア製品企画の提案、ソフトウェア品質測定手法、ソフトウェア保守の形態に関する知識、データモデリング、データ設計、データ分析、テスト手法、バランススコアカード、バリューチェーン分析手法、パレート図、ヒアリング手法、ビジネスプロセス、ビジネスプロセスマネジメント(BPM)、ビジネスプロセスリエンジニアリング(BPR)、ビジネスプロセス分析・表記手法、ビジネスモデル、ビジネス環境分析手法、プログラムマネジメント、プロジェクト管理、プロジェクト計画策定手法、プロジェクト評価手法、プロセス成熟度、ベストプラクティス、ベンチマーク、マーケティング、ユーザー、経営者の要請把握、リスクマネジメント、リスク定額評価指標、リスク分析手法、開発プロジェクト体制構築に関する知識、開発環境稼働状況管理に関する知識、開発環境構築に関する知識、開発投資対効果、開発方法論全般、管理図、関係法規(知的所有権関連法規、労働関係法規など)、競合分析手法、業務システム提案、業務パッケージ、業務フロー図、業務プロセス分析、業務モデル、業務設計、業務分析手法、経営管理の知識、経営組織(事業部制、カンパニ制、CIO、CEOほか)、経営分析手法、建築基準法第二章建築物の敷地、見積り手法、原因結果分析、原価管理、顧客要求仕様の理解、構造及び建築設備、国際標準・国内標準、国際標準ISO/IEC20000、差異分析手法、事業戦略、実行計画策定手法、消防法第二章火災の予防・第四章消防の設備等、情報システムモデル、情報システム評価手法、情報セキュリティ、情報リテラシー、情報化推進体制、情報化投資計画、生産性評価手法、戦略目標、全体開発スケジュール立案に関する知識、全体最適化、組織能力評価手法、組織論一般、知的所有権関連法規(著作権法、特許法、不正競争防止法など)、統合マネジメント、特許要因図、内部統制、標準化、評価指標(KGI・KPI)の把握方法・タイミング、評価指標(KGI・KPI)の評価方法、品質管理、品質計画、品質保証、目的機能展開、問題解決手法、労働関係法規
							技術問題解決手法	技術問題解決手法の活用と実践
							調達計画・実施	RFC(RequestforChange)、アウトソーシングに関する知識、アンケート技法に関する知識、インソーシング/アウトソーシング、サポート、ソフトウェア、ソフトウェアのサプライチェーンマネジメント、ソフトウェア資産管理、テスト/評価/ベンチマーク、ハードウェア、リスクラシスの事例、リスク対策に関する知識(回避予防軽減移転保有)、契約/RFP(RequestforProposal)、見積書、見積書の記述項目、現行環境分析に関する知識、構築/購入、情報機器導入計画の記述項目、新情報機器要件の把握に関する知識、著作権管理に関する知識、調達条件、調達の条件に関する知識、調達の要求事項、調達に関する知識、調達リスク分析、調達計画、調達選定、調達選定に関する知識、提案依頼書(RFP)、提案書、提案書の記述項目、提案評価の際の評価項目および選定基準に関する知識、提案申請に関する知識、内外作基準に関する知識、秘密保持契約(NDA)、品質
						(実装) 見積り手法	規模の見積り手法	スケジュール最適化(クリティカルパス、PERT、ガントチャートなど)、パラメトリック・モデリング、ファンクションポイント法(FP試算法、FP概算法、IFPUG法)、プログラム規模見積り(LOC法)、ボトムアップ見積り、規模の見積り(LOC/FunctionPoint/COCOMOなど)、係数見積り(基準値法、COCOMO)、熟練者の判定として形式化された経験、類推見積り(類推法、デルファイ法)
						(支援活動) 情報セキュリティ	リスク分析手法	ベースラインアプローチ、脅威の分類・調査、詳細リスク分析、脆弱性の把握・評価、組み合わせアプローチ、対策検証、調査方法、定性的リスク評価、定量的リスク評価、非形式的アプローチ、評価基準
							情報セキュリティポリシー策定手法	Webサービス対策、アカウント管理対策、ウイルス対策、クライアント等に関する対策、サーバに関する対策、サーバールームに関する対策、システム維持に関する対策、システム監視に関する対策、スタンダード更新手順、セキュリティインシデント報告・対応対策、セキュリティ教育に関する対策、セキュリティ情報収集及び配信対策、ネットワーク構築対策、プライバシーに関する対策、プロジェクト配布の対策、ユーザー認証対策、リモートアクセスサービス利用対策、委託時の契約に関する対策、外部公開サーバに関する対策、監査対策、記述すべき項目(目的、適用範囲、組織と体制等)、事業継続管理、職場環境に関する対策、専用線およびVPNに関する対策、電子メール対策、媒体の取り扱いに関する対策、罰則に関する対策、物理的対策、無線LANに関する対策、有線LANに関する対策
						(支援活動) チェンジマネジメント手法	協働の管理手法	ステークホルダー・リスト、マップ、ペルソナ、リスクの分析とマネジメント、協働ゲーム、教訓

大分類コード	タスク大分類	中分類コード	タスク中分類	スキル大分類	スキル分類	スキル項目	知識項目
						ビジネスソリューション変更管理手法	SWOT分析、インタビュー、スコープ・モデリング、データフロー図(DFD)、データ・モデリング、バランス・スコアカード、ビジネス・ケース、ビジネス・モデル・キャンバス、ビジネス・ルール分析、ビジネス能力分析、フォーカス・グループ、プレーストリーミング、プロセス・モデリング、ベンダー評価、ベンチマークと市場分析、マインド・マッピング、ユーザー・ストーリー、ユースケースとシナリオ、機能分解、教訓、決定分析、見積り、財務分析、組織モデリング、文書分析、ワークショップ
						ソリューション価値測定手法	インタビュー、データ・マイニング、ビジネス・ケース、ベンダー評価、ベンチマークと市場分析、ユースケースとシナリオ、リスクの分析とマネジメント、観察、決定分析、根本原因分析、受け入れ基準と評価基準、調査やアンケート、非機能要求分析、評価指標と重要業績評価指標(KPI)、フォーカス・グループ、プロトタイプ
				テクノロジー	(システム) クラウドコンピューティングの基礎技術	クラウドコンピューティング基礎 クラウドコンピューティング利用	IAAS, PAAS, SAAS, ハイブリッドクラウド、パブリッククラウド、プライベートクラウド 3つの技術分野と5つの非機能要件、アイデンティティ管理、クラウドコンピューティングにおける各種の標準、クラウドコンピューティングの使用をサポートする、クラウドサービスに求められるもの、クラウドサービスの特殊性、クラウドと社内システムとの連携、セキュリティとクラウド、ビジネスケース、導入の評価
					(開発) システムアーキテクティング技術	システム要件定義	アクセス統合設計に関する知識、アプリケーション開発ツールに関する知識、アプリケーション開発に関する規格及びモデルに関する知識、アプリケーション構築の知識、アプリケーション統合設計に関する知識、アプリケーション保守設計の知識、インシデント管理問題管理、変更管理プロセス設計に関する知識、キャパシティ設計に関する知識、キャパシティ要件定義に関する知識、システムの評価と改善に関する知識、システム化戦略策定の知識、システム管理運用設計に関する知識、システム分析と要求定義(機能要求/非機能要求の明確化)、システム分析と要求定義(要求定義)、システム分析と要求定義(要求分析手法)、システム分析と要求定義のレビュー(システム要求仕様のレビュー)、システム要件の評価、システム要件定義(機能、能力、業務・組織及び利用者の要件、設計制約条件、適格性確認要件ほか)、シミュレータに関する知識、セキュリティ設計に関する知識、セキュリティ設計に関する規格及びモデルに関する知識、ソフトウェア製造の知識に関する知識、チェックリスト分析に関する知識、データベースアクセス設計の知識、データモデリングに関する知識、データ統合設計に関する知識、テストに関する知識に関する知識、デバッグに関する知識、トランザクション設計の知識、ユースの分析と優先順位付けに関する知識、ネットワーク設計に関する知識、ネットワーク設計に関する知識、パフォーマンス設計に関する知識、バリューチェーン分析に関する知識、プラットフォーム設計(OS, ミドルウェアなど)に関する知識、プラットフォーム設計に関する知識、プラットフォーム選定に関する知識、プロセス統合設計に関する知識、プロダクトポートフォリオマネジメント(PPM)モデル、マルシェットの明確化に関する知識、ユーザインタフェース統合設計に関する知識、ユーザ要求、プロジェクト範囲、目的の明確化に関する知識、移行要件の記述項目、運用、操作要件の記述項目、可用性設計に関する知識、開発ツール評価技術、開発環境要件の記述項目、開発工程に関する知識(サブプロセス、マネジメント、要員配置、ツール、成果物など)、外部設計知識に関する知識、拡張性要件定義に関する知識、監視方式に関する知識、機能モデルの記述項目、技術要件の記述項目、現行IT環境分析に関する知識、現行業務フローの記述項目、構成管理ツールに関する知識、資源要求の調査に関する知識、事業ライフサイクル(導入期、成長期、成熟期、衰退期)モデル、情報システム調査分析手法、情報システム評価手法、状況レビュー会議の運営に関する知識、新機能要件の記述項目、性能設計の知識、性能要件定義に関する知識、正常、異常時の運用方式と運用フロー設計に関する知識、内部設計知識に関する知識、品質要件の記述項目、物理データ構造設計に関する知識、文書レビューに関する知識、変更管理プロセス設計に関する知識、保守の知識に関する知識、目標の設定に関する知識、問題、課題の明確化に関する知識、要求の獲得と調整(マインドマップによる要求獲得、要求の獲得と調整(ユースケース図による要求整理)、要求事項評価に関する知識、要件の定義と文書化に関する知識、要件調査の実施に関する知識、要件定義に関する知識、論理データ構造の知識
						システムインテグレーションとアーキテクチャ	インフラストラクチャ、ミドルウェア、プラットフォーム、エンタープライズアーキテクチャ(EA)、コンポーネント、インタフェース、インテグレーション、システムアーキテクチャ、テスト/評価/ベンチマーク、技法: データウェアハウス、拡張フレームワーク、ラッパー、グルー、ファサド、情報アーキテクチャ、大組織の統合アプリケーション(CRM, ERP)、表記/モデリング
						IT基盤構築プロセス	システムの評価と改善、システム化要件定義、システム計画策定、システム方式設計、セキュリティ監査、セキュリティ方針と対策基準の策定、移行設計、構築とテスト、障害管理、保守
						システム方式設計	ATM(Asynchronous Transfer Mode)、フレームリレーなど回線に関する技術、キャパシティ要件定義に関する知識、システムの最上位の方式確立(ハードウェア/ソフトウェア/手作業の機能分割、ハードウェア方式設計、ソフトウェア方式設計、システム処理方式設計、データベース方式設計ほか)、システム運用に関する知識、システム運用管理に関する知識、システム運用管理方式に関する知識、システム監視(稼働監視、障害監視、性能監視、関連監視)に関する知識、システム管理に関する知識、システム管理運用設計に関する知識、システム基盤テスト戦略、計画の記述項目、システム基盤移行戦略、計画の記述項目、システム基盤設計ツールに関する知識、システム基盤設計技法、システム構成設計技術、システム方式に関する知識(ハードウェア/ソフトウェア/手作業の機能分割、ハードウェア方式、ソフトウェア方式、アプリケーション方式、IT基盤構築・維持・管理)、システム方式の評価、シヨブ管理に関する知識、セキュリティ設計に関する知識、ハードウェアとソフトウェア間の機能および性能分担の決定(システム方式のハードウェア構成の検討)、ハードウェアとソフトウェア間の機能および性能分担の決定(ハードウェア/ソフトウェア間の機能/性能分担の検討)、ハードウェアとソフトウェア間の機能および性能分担の決定(実現可能性の検証)、ハードウェアやソフトウェアの構成管理に関する知識、バックアップとリカバリに関する知識、バックアップリカバリ方式に関する知識、パフォーマンス計測技術、パフォーマンス設計に関する知識、パフォーマンス設計、プラットフォームに関する知識、プロジェクトコア/記述書の項目、リスクの評価技術、リスク識別技術、可用性設計に関する知識、実現可能性の検証とデザインレビュー(実現可能性検証)、信頼性実現技術、性能設計技術(性能・容量を考慮した設計技術および見積り技術)
					関連知識	企業活動	情報セキュリティ監査
						ビジネスプロセスマネジメント	5W, BPR, CTQ, DMADV, DMAIC, IGOE, SIPOC, TOC思考プロセス、カイゼン・イベント、コスト分析、サイクルタイム分析、シックス・シグマ、ドラム・バッファ・ロープ、バリュー・ストリーム分析、プロセス・シミュレーション、リーン、継続的改善、故障モード影響分析、制約理論、総合的品質管理、適応型ケース・マネジメント、品質機能展開、付加価値分析
				ヒューマンスキル	創造力	問題発見力	環境変化に敏感になる能力(環境変化洞察の原則)、ITを常に念頭に入れる能力(IT徹底活用原則)
					実行・実践力	俯瞰力	ITコンテンツを活用する能力、戦略と実行を合わせる能力(戦略実行整合の原則)、全体視点で考える能力(全体最適の原則)、身の丈に合ったIT導入から始める能力(IT経営の成熟度の原則)、経営戦略との整合性を確保する能力(経営戦略との整合性確保の原則)
						深耕力	人間関係を構築する能力、分析・評価する能力、経営戦略と収益をリンクさせる能力(収益性の原則)、セキュリティとその他リスクを適切に管理する能力(セキュリティ&リスク管理の原則)、投資対効果を明らかにしたIT化投資を行う能力(投資対効果の原則)
						継続力	持続的な成長を目指す能力(学習と成長の原則)
						革新力	プロセスを改善・改革する能力、提供価値を問い続ける能力(価値創造の原則)、価値に基づく能力(価値前提に基づく経営の原則)、ITの可能性を引き出す能力(IT積極的活用の原則)、仕事の固定観念を捨てる能力(新たな可能性追求の原則)、業務とITの足並みをそろえる能力(業務改革・IT戦略協調の原則)、ITの進化と利活用のインパクトを見極める能力(経営環境変化・技術動向への対応の原則)
						コミュニケーション力	自分の考えを伝える力 相手の考えを理解する力 共感を呼ぶ力

大分類コード	タスク大分類	中分類コード	タスク中分類	スキル大分類	スキル分類	スキル項目	知識項目	
		B4	IT戦略を支えるIT利活用環境を整えること【IT利活用プロセス】	マネジメント	(戦略)システム戦略立案手法	システム化戦略手法	ANSI、バランススコアカード、CRUD分析、CSF(CriticalSuccessFactor)、EA(エンタープライズアーキテクチャ)、ER図、IEC、IEEE、IETF、ISO、ITU、ITポートフォリオモデル、JSA、KGI(KeyGoalIndicator)、KJ法、KPI(KeyPerformanceIndicator)、MECE(ミーシー)、W3C、システムライフサイクル、システム化戦略の策定、データフローダイアグラム(DFD)、ビジネスプロセスモデリング、ビジネスプロセスリエンジニアリング(BPR)、ビジネスモデル、プレスリリース、プログラムマネジメント、ベンダーの新製品情報、モデリング、ユーザのビジョン、ゴール、ビジネス戦略の把握、リスク分析手法、業界団体、業務パッケージを利用したシステム化戦略策定、業務モデル、業務分析手法、経済産業省などの公的機関の調査報告(特許動向など)、情報システムモデル、情報資産の識別方法(情報・データ、システム、人材、文書)、情報資産の評価方法(機密性、完全性、可用性に関する重要性、致命度、危険度)、情報資産台帳の内容、先進事例、全体最適化、標準化団体が主催する会合等への参加、標準化団体の発行物	
						システム活用促進・評価	BIツールに関する知識、情報システムモデル、IT活用教育の事例、PDCAサイクル(定期的レビュー、評価のフィードバックとアクション)、システム廃棄、システム利用実態の評価・検証、チェンジマネジメント、デジタルディバイド、データの戦略的活用事例、データ活用、ナレッジマネジメント、バランススコアカード、ヒアリング手法、ビジネスプロセスリエンジニアリング(BPR)、ビジネスモデル、プロジェクト・チームのマネジメント、モチベーションマネジメント、仮説構築法、業務モデル、業務改善、業務分析手法、原因分析(ブレインストーミング、アンケート調査、面接調査、各種データ収集、分析、加工)、構造化手法、差異分析手法、情報システムユーザー利用実態の調査(モニタリング、目標達成度)、情報リテラシー、情報リテラシー教育事例、人材育成計画、統計解析手法、評価指標(KGI・KPI)の評価方法、評価制度(評価指標)、普及啓発、分析手法(作業分析、PTS法、ワークサンプリング法ほか)、問題解決手法、CSF(CriticalSuccessFactors)	
						業務プロセス	BPO、SFA、オフショア、ビジネスプロセスマネジメント(BPM)、ビジネスプロセスリエンジニアリング(BPR)、ビジネスプロセス表記手法、ビジネスモデル、業務モデル、業務改善、業務設計、業務分析、製品・サービスのライフサイクル、製品のライフサイクル	
						(実装) プロジェクトマネジメント手法	プロジェクト調達マネジメント	COTS(CommercialOffTheShelf)、オフショア開発、サービス・レベル・アグリーメント(SLA)、サプライヤの選定、システム開発取扱いおよび契約、スクリーニング・システム、データ廃棄方法、ブリッジSE、プロポーザル評価技法、リスク分析手法、海外調達に関する知識、記録マネジメント・システム、契約タイプ、契約管理(契約内容からの逸脱監視と是正対応)、契約管理(契約変更管理)、契約管理(調達先パフォーマンスレビュー)、契約計画、契約交渉、契約締結、検収・納品管理、見積書の記述項目、購入・取得計画、重み付け法、進捗管理、請負契約による外部委託、専門家の判断、知的所有権、著作権管理に関する知識、調達・契約計画の作成(組織調達方針・手続き)、調達・契約計画の作成(適切な契約形態の決定)、調達・契約計画の作成(内外製分析)、調達のマネジメント、調達の管理、調達の計画、調達の条件に関する知識、調達の要求事項に関する知識、提案依頼書(RFP)の記述項目、提案書の記述項目、適格納入者リストの作成、独自見積り、内外製分析、入札公告、入札説明会、納入者の選定・発掘(契約交渉)、納入者の選定・発掘(調達基準)、納入者の選定・発掘(調達先候補の発掘)、納入者回答依頼、納入者選定、納入者点数評価システム、秘密保持契約(NDA)、標準書式、品質管理、要求仕様(要求管理)、クレーム管理、パフォーマンス報告、会議、契約変更管理システム、検査と監査、公告、市場調査、支払システム、調達パフォーマンスレビュー、調達監査、調達交渉、分析技法
						(利活用) サービスの運用	サービスの運用手法	アクティビティ定義、アップグレード、アプリケーション開発ツール、オペレーション/ジョブ管理に関する知識、サービスデスクに関する知識、システム運用管理、システム運用管理の評価技術、システム運用管理技術、システム管理、シミュレータ、スケジュール・コントロール、ステークホルダー・マネジメント、セキュリティ管理、セキュリティ管理ツール、データオペレーション、データベースシステム、デバッグ、ナレッジマネジメント、バックアップ/リカバリ方式、パッチ、プラットフォームに関する知識、ホットフィックス、ユーザーコンサルティングに関する知識、ユーザーサービスレベル方針決定に関する知識、ユーザー教育・訓練技術に関する知識、ユーザー支援技術、ユーザー要求への対応に関する知識、リスク・マネジメント、リリース、リリース管理に関する知識、ログの取得、活用に関する知識、開発環境要件の定義、環境対策管理手法の策定と活用、監視に関する知識、監視方式、管理体制の確立、業務フローの策定、業務標準の策定、顧客満足度、構成管理ツール、資源管理、実績報告、重要なデータ保全体制、障害監視ツール、情報システム資産計画策定、管理、情報配布、性能監視ツール、設計施工と維持運営ツール、組織、役割の設定、操作マニュアル・業務マニュアル作成、適正要員の配置に関する知識、変更管理に関する知識、防災・環境等関連法規に関する知識、防災防犯のリスク管理に関する知識、防災防犯設備維持運営に関する知識、問題管理に関する知識、要員数の配置に関する知識
						サービスデスク運用手法	CS向上活動(プランが策定)手法、ITサービスに関する標準、インシデント管理プロセスの機能、お客様業務内容理解、お客様定期報告、クレームレベルの理解、クレーム管理、コールトラッキングシステムの機能、サービスデスク、サービスレベルのモニタリングと評価、サービス継続性管理、システム監査に関する基準、ステークホルダー管理、セキュリティに関する標準、ソフトウェア構成、ナレッジベースの活用、ネットワーク構成、ハードウェア構成、ファンリテイ管理、リソース管理、可用性管理、稼働監視と傾向分析、業務影響度の理解、業務分析、現状IT環境分析に関する知識、契約情報管理、顧客満足度管理、広域お客様管理、資産管理、情報資産(ナレッジマネジメント)管理、是正配置、測定と分析および改善、体制構築、スケジュール立案に関する知識、対人/ヒヤリング/会話対応知識、知的資産の知識と活用、品質計画と管理のツールと技法、品質要件、体制構築、スケジュール立案に関する知識、予防処置	
						(支援活動) チェンジマネジメント手法	協働の管理手法	ステークホルダー・リスト、マップ、ペルソナ、リスクの分析とマネジメント、協働ゲーム、教訓
						ソリューション価値測定手法	インタビュー、データ・マイニング、ビジネス・ケース、ベンダー評価、ベンチマークと市場分析、ユースケースとシナリオ、リスクの分析とマネジメント、観察、決定分析、根本原因分析、受け入れ基準と評価基準、調査やアンケート、非機能要求分析、評価指標と重要業績評価指標(KPI)、フォーカス・グループ、プロトタイプ	
						ソリューション評価手法	SWOT分析、インタビュー、データ・マイニング、ビジネス・ルール分析、フォーカス・グループ、ベンチマークと市場分析、リスクの分析とマネジメント、ワークショップ、課題トラッキング、観察、教訓、決定分析、根本原因分析、財務分析、受け入れ基準と評価基準、組織モデリング、調査やアンケート、文書分析、役割・権限マトリクス、優先順位付け、ブレーンストーミング、プロセス・モデリング、プロセス分析	
						(保守・運用) システム保守・運用・評価	システムの投資評価技法	情報システムの投資評価技法
					システム管理計画	SLA、サービスデスク、システムおよびサービス提供の費用見積もり、システム運用管理方針、ユーザーサービスレベル方針決定		
					運用に関するシステム評価	システム運用管理の評価技術、システム運用管理の分析技術、リスク分析		
					(共通技術) ナレッジマネジメント技術	FAQ	FAQの公開、FAQの作成手順	
					ナレッジベース	ナレッジベースのコンテンツ、ナレッジベースの構築、保守		
					ナレッジマネジメントの意義	ナレッジマネジメントのプロセス、ナレッジマネジメントの利点		
					法規・基準・標準	労働関連・取引関連法規	OSSライセンス(GPL、BSDライセンスほか)、クリエイティブコモンズ、ソフトウェア契約、パブリックドメイン、ライセンス契約、下請法、外部委託契約、公益通報者保護法、守秘契約(NDA)、商法、選定基準の事例、担当者誓約書の書式に関する知識、著作権管理に関する知識、特定商取引法、秘密保持契約(NDA)、標準的な契約書の雛形、標準的な要求仕様書の雛形、保管管理、民法、労働関連法規、労働基準法、労働者派遣法	
					創造力	問題発見力	環境変化に敏感になる能力(環境変化洞察の原則)、ITを常に念頭に入れる能力(IT徹底利活用の原則)	
					実行・実践力	俯瞰力	ITコンテンツを活用する能力、戦略と実行を合わせる能力(戦略実行整合の原則)、全体視点で考える能力(全体最適の原則)、身の丈に合ったIT導入から始める能力(IT経営の成熟度の原則)、経営戦略との整合性を確保する能力(経営戦略との整合性確保の原則)	

大分類コード	タスク大分類	中分類コード	タスク中分類	スキル大分類	スキル分類	スキル項目	知識項目
				ヒューマンスキル		深耕力	人間関係を構築する能力、分析・評価する能力、経営戦略と収益をリンクさせる能力(収益性の原則)、IT資源調達を評価基準をもって選ぶ能力(評価基準による選定の原則)、IT資源調達を公平性をもって選ぶ能力(調達公平性確保の原則)、IT資源調達を総合的な視点で選ぶ能力(最適IT資源調達の原則)、関係者の信頼関係を構築し協働する能力(ステークホルダーによる協働の原則)、契約の履行でIT導入を確実なものにする能力(契約履行の原則)、ITと業務改革両方のプロジェクト完遂にこだわる能力(IT化プロジェクト完遂の原則)、IT戦略目標の達成にこだわる能力(ITサービス活用によるIT戦略目標達成の原則)、セキュリティとその他リスクを適切に管理する能力(セキュリティ&リスク管理の原則)、投資対効果を明らかにしたIT投資を行う能力(投資対効果の原則)
						継続力	持続的な成長を目指す能力(学習と成長の原則)
						革新力	プロセスを改善・改革する能力、提供価値を問いつける能力(価値創造の原則)、価値に基づく能力(価値前提に基づく経営の原則)、ITの可能性を引き出す能力(IT積極的活用の原則)、仕事の固定観念を捨てる能力(新たな可能性追求の原則)、業務とITの足並みをそろえる能力(業務改革・IT戦略協調の原則)、ITの進化と利活用のインパクトを見極める能力(経営環境変化・技術動向への対応の原則)
					コミュニケーション力	自分の考えを伝える力	プロフェッショナルの意識を持つ能力、経営者の「思い」を伝え組織を動かす能力(経営者牽引の原則)、経営者はIT化プロジェクトに関する能力(経営者関与の原則)
						相手の考えを理解する力	資質・適性を合わせる意識を持つ能力
						共感を呼ぶ力	自己意識を持つ能力、協創意識を持つ能力、合意形成する能力
C	横断的活動を円滑に進めるための支援をすること【IT経営共通領域】	C1	革新プロジェクトの全体マネジメント(プログラムマネジメント)をすること【プロジェクトマネジメント】	(実装) 見積り手法	規模の見積り手法	スケジュール最適化(クリティカルパス、PERT、ガントチャートなど)、パラメトリック・モデリング、ファンクションポイント法(FP試算法、FP概算法、IFPUG法)、プログラム規模見積り(LOC法)、ボトムアップ見積り、規模の見積り(LOC/FunctionPoint/COCOMOなど)、係数見積り(基準値法、COCOMO)、熟練者の判定として形式化された経験、類推見積り(累推法、デルファイ法)	
				(実装) プロジェクトマネジメント手法	プロジェクトマネジメント	システムのマトリクス、システム開発の品質保証、システム開発計画の策定、実施、システム文書の作成、スケジューリング、スコープとスコープ管理、ソフトウェアの計画および見積りの技法、ソフトウェア開発マネジメントの種類(調達マネジメント、プロジェクトマネジメント、開発マネジメント、保守マネジメント、リスクマネジメント等)、ソフトウェア構成管理の方法、ソフトウェア製品の品質保証に使用する様々な手法と技術、ソフトウェア品質保証の方法、チーム管理:チームプロセス、チーム編成と意思決定、ソフトウェアチームにおける役割と責任、役割の識別と割当て、プロジェクト追跡、チーム問題解決、トラッキング、プロジェクト、プロジェクト&プログラムマネジメント(P2M)、プロジェクト・スコープ記述書暫定版作成、プロジェクトガバナンス、プロジェクトスタッフの考え方(例:マトリクス管理、人間の要因、チーム組織、報告)、プロジェクトにおける品質マネジメントの指針に関する規格(ISO10006)、プロジェクトの完了、プロジェクトの環境、プロジェクトの管理(計画、コストの見積り、資源配分、ソフトウェアの技術的レビュー、分析、フィードバック、コミュニケーション、品質の確保、スケジューリング、マイルストーン)、プロジェクトの制約、プロジェクトの組織、管理、原則、概念、問題、プロジェクトの追跡(例:PERT、ガント、CPM、CC)、プロジェクトマネジメントに関する知識、プロジェクトマネジメントの役割、プロジェクトマネジメント計画書作成、プロジェクトライフサイクル、プロジェクト管理ツール、プロジェクト計画、プロジェクト計画と適切なプロセスモデルの選択、プロジェクトのスケジューリングとマイルストーン、プロジェクト計画に関する規格(ISO/IEC/IEEE16326)、プロジェクト憲章作成、プロジェクト作業の監視コントロール、プロジェクト実行の指揮、プロジェクト終結、プロジェクト設計におけるテラリング、モニタリングと報告、ユーザ文書の作成(例:参照マニュアル、操作手順、オンライン文書)、リスクマネジメントに関する知識(ERMなど)、リスク分析、リスク分析の方法、一般的なプロジェクトマネジメント、管理上の概念、ストレスと時間管理、業務遂行能力の基準、計画、結果の測定と分析、古典的なマネジメントモデル、構成管理、作業構造(WBS)とスケジュール、資金調達/見積り/予算作成、事後分析、是正とリカバリ、全社的/組織的なマネジメントの構造、統合変更管理、費用便益分析、複数プロジェクトの管理、変更のコントロール、報酬と規律、役割/責任/説明責任	
					プロジェクト統合マネジメント	EVM(EarnedValueManagement)、WBS(WorkBreakdownStructure)の作成、アクティビティ所要期間見積り手法、アクティビティ定義、ガントチャート:プロジェクト計画、コスト計算、チームワーク、クリティカルパス、システムのリリース手順の作成、システムの変更のトレース、システムの変更監視、システムの変更計画、システムライフサイクル、システムリリースの実施、システム開発手法、システム工学におけるプロジェクト管理の性質、基本原理、システム構成管理、タスクのスケジューリング、チーム編成、ソフトウェアプロジェクト管理の難しさ、データの統計的分析手法、ナレッジマネジメント、プロジェクト・スコープ記述書の記述項目、プロジェクトフェーズ又はプロジェクトの終結、プロジェクトマネジメント計画(プロジェクト境界の識別)、プロジェクトマネジメント計画(個別マネジメント計画の最適化)、プロジェクトマネジメント計画(実績測定ベースラインの識別)、プロジェクトマネジメント計画の記述項目、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクト完了後評価指標、プロジェクト管理情報の確保、仕様へのタイムリーな準拠、タイムリーな引き渡し、プロジェクト計画の作成、プロジェクト憲章(ビジネス視点でのプロジェクト目的、ニーズの識別)、プロジェクト憲章(プロジェクトマネージャの責任の識別)、プロジェクト憲章(前提/制約条件、重要リスクの識別)、プロジェクト憲章の記述項目、プロジェクト憲章の作成、プロジェクト作業のコントロール、プロジェクト作業の監視コントロール、プロジェクト作業の指揮、プロジェクト実行の指揮、マネジメント、プロジェクト選定手法、リスクマネジメント、リソースの割り当て、リリース可否判定、意思決定をチームに割り当てる、問題と選択肢、開発プロジェクト体制構築に関する知識、開発投資対効果、学んだ教訓の収集、管理サポートの測定基準の役割、業務運用設計、契約計画、計画と評価、見積り手法、工数の見積り、資源配分、出荷判定、専門家の判断、統合変更管理(変更管理委員会による合意形成)、統合変更管理(変更手順の確立)、統合変更管理(変更追跡)、特別採用、標準、法的要件、コンサルタント、下請業者、それらの利用と管理、品質計画、品質保証、変更のコントロール、問題解決手法、ファンクショナル技法、プロジェクトマネジメント情報システム、会議、分析技法、変更管理ツール	
					プロジェクトコストマネジメント	コストのコントロール、コストコントロール(コスト差異分析)、コストコントロール(組織コスト管理システム)、コストの見積り、コストの予算化、コストベースライン(見積りもコストの集約)、コストベースライン(組織予算とのすり合わせ)、コストベースライン(予備コストの設定)、コスト見積り(係数見積り)、コスト見積り(積み上げ見積り)、コスト見積りに関する知識、コスト集約、コスト変更管理システム、システムライフサイクル、パフォーマンス測定分析、プロジェクトのパフォーマンスレビュー、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、リスク分析手法、開発投資対効果、契約管理、限度額による資金調整、購入・取得計画、差異マネジメント、予算の編成、予測、予算設定分析、アラート/バリエーション・マネジメント、グループ意思決定技法、コード再利用工数の見積り、コスト見積り(類推見積り)、ストーリー・ポイント見積り、ソースコード行数見積り、タイムボックス見積り、パフォーマンス見積り、ファンクション・ポイント見積り、パフォーマンス・インデックス・ベンチマークの分析、ボトムアップ見積り、マネジメント・マトリクス、ユースケース・ポイント見積り、過去の関連性、会議、三点見積り、残作業効率指数(TCPI)、資金限度額による調整、専門家の判断、品質コスト(COQ)、分析技法	
					プロジェクトコミュニケーションマネジメント	「Zカード」/多重折参照カード、1対1のミーティング、E-Learning、OHSAS18001労働安全衛生マネジメントシステム、イントラネット、オフショア開発、キャリアプラン(キャリアパス、キャリアアクション)、コミュニケーションシナリオ、コミュニケーションに対する要求事項の分析、コミュニケーションの計画、コミュニケーション計画(コミュニケーション計画(コミュニケーションマネジメント計画書の作成、合意)、コミュニケーション計画(コミュニケーション技術の活用)、コミュニケーション計画(コミュニケーション要求の分析)、コンプライアンス、コンプライアンス教育、シミュレーション・ゲーム、ステークホルダー・マネジメント、ステークホルダー間情報共有(コミュニケーション手段)、ステークホルダー間情報共有(課題共有)、ステークホルダー間情報共有(協力・すり合わせ)、チーム・ミーティング、トレーニング・セッション、ニュースレター、パートナーとのコミュニケーション、ブリッジSE、プロジェクト実績情報(パフォーマンスレビュー)、プロジェクト実績情報(パフォーマンス情報の収集・編集)、プロジェクト実績情報(実績データ収集システム)、ポスター/ロードマップ、ワークショップ、外部委託、給与明細による通知、教育、訓練の実施方法、教育、訓練の評価方法、教訓プロセス、掲示板やメールボックスを使った質疑応答やフィードバック、購買先プロセス監査、情報の配布、情報収集検索システム、情報倫理、組織全体のミーティング、組織論、内部統制、補足連絡文書、労働衛生安全法、オンライン・コラボレーション・ツール、コミュニケーション・モデル、コミュニケーション技術、コミュニケーション手段、コミュニケーション方法、コミュニケーション要求事項分析、パフォーマンス報告、ベロシティ、過去のベロシティ、会議、思慮深いコミュニケーション、自動化システム、情報マネジメント・システム、情報ラジェーター、情報配布ツール、専門家の判断	

大分類コード	タスク大分類	中分類コード	タスク中分類	スキル大分類	スキル分類	スキル項目	知識項目
						品質に関する基礎	5ゲン主義、DR(設計レビュー)、ISO/IEC25000シリーズ(SQuaRE)、McCallの品質モデル、QC/QCサークル活動、QC診断、RAD、SQC(統計的品質管理)、SQMAT、アンチパターン、エラー、コトづくり、サービスの品質、システム/ソフトウェア製品の品質モデル(ISO/IEC25000シリーズ)、シミュレーションモデル、セーフティ、セキュリティ、ソフトウェアの品質、ソフトウェアの品質マネジメントの特徴、ソフトウェアパターン、ソフトウェア製品の品質モデル(ISO/IEC9126シリーズ)、ソフトウェア品質、ソフトウェア品質モデル、ディメンダビリティ、ディメンダビリティの定義、ディメンダビリティ管理、ディメンダビリティ管理に関する規格、データ品質モデル、デミング賞、バグ、フォールト、プロセス品質、プロダクト品質、マトリクスモデル化、モデル検査、ユーザビリティ、リイアビリティ、安全性、移植性、一元的品質、改善、外部特徴、外部品質特性、機能性、狭義の質、系統故障、経営管理の14の原則、結果系、検査重点主義、現地・現物、故障、顧客志向、効率性、工程管理重点主義、広義の質、使用性、次工程はお客様、小集団活動、消費者指向、障害、信頼性、新製品開発重点主義、図式モデル、数理モデル、生産性、製品品質、製品品質モデル、設計品質、全員参加、全社的品質管理、組織活性化、適合品質、当たり前品質、特性要因図、内部特徴、内部品質、内部品質特性、日本の品質管理、品質の概念、品質の作り込み、品質の相対性、品質の定義(GeraldM. Weinberg)、品質の定義(IEEESTd610)、品質の定義(ISO/IEC25000シリーズ)、品質の定義(ISO9000)、品質の定義(JamesMartin)、品質の定義(JosephM. Juran)、品質の定義(PhilipB. Crosby)、品質の定義(RobertL. Glass)、品質の定義(RogerS. Pressman)、品質の定義(WilliamE. Deming)、品質の定義(狩野紀昭)、品質の定義(石川馨)、品質の定義(飯塚悦功)、品質の定義(品質の考え方の変遷)、品質マネジメント、品質改善、品質管理(qualitycontrol)、品質計画、品質作り込み技術、品質第一、品質特性、品質副特性、品質保証、保守性、保全性、満足性、魅力的品質、無欠陥(ZeroDefects)、有効性、要因系、利用時の品質、利用時の品質モデル、利用時の品質特性、論理的推論
						品質分析・評価手法	EDA(探索的データ解析)手法、Fault-Prone分析、NHPPモデル、ODC(直交欠陥分類)、PDPC法、PTRサブモデル、PTR発生およびバックログ予測モデル、p管理図、QC七つ道具、Rayleighモデル、u管理図、アローダイアグラム法、インスペクション、インタフェース評価、ウォークスルー、クラス分析、グラフ、コード統合パターン、ゴンベルツ曲線、シミュレーション、ソフトウェアプロトタイプ、ソフトウェア信頼性モデル、ソフトウェア信頼度成長モデル、チェックシート、データ解析・表現に関する技法、テクニカルレビュー、なぜなぜ分析、バグ分析、ハザードレイト、バレット図、ヒストグラム、フォールト発見数モデル、プロセス品質、プロセス品質の分析・評価、プロトタイプ、マトリクス・データ解析法、マトリクス図法、マネージメントレビュー、モデリング、ユーザガイドダンス、ユーザ親和性、ユーザ多様性、ユーザ対話スタイル(質問・応答、直接操作、メニュー選択、形式記入、コマンド言語、自然言語)、ユーザ分析、リーダーチャート、ロジスティック曲線、異常値管理、一貫性、因子分析、回復性、学習容易性、管理限界、管理図、驚きの最小化、系統図法、欠陥除去モデル、故障発生時間モデル、工数・成果マトリクス、根本原因分析、再発防止システム、散布図、指数形モデル、主成分分析、修正指数形モデル、習熟S字形モデル、重回帰分析、障害分析に関する技法、情報提示設計(モデル・ビュー・コントローラ(Model-View-Controller))、信頼性予測に関する技法、新QC七つ道具、親和図法、数量化理論、正準相関分析、静的モデル、層別、多変量解析、多変量分散分析、探針、遅延S字形モデル、統計的データ解析モデル、動的モデル、特性要因図、判別分析、非同次ポアソン過程モデル、品質座標、品質進捗管理に関する技法、品質分析・評価の技法、連関図法
				ヒューマンズスキル	創造力	問題発見力	環境変化に敏感になる能力(環境変化洞察の原則)、ITを常に念頭に入れる能力(IT徹底活用原則)
			実行・実践力		俯瞰力	ITコンテンツを活用する能力、戦略と実行を合わせる能力(戦略実行整合の原則)、全体視点で考える能力(全体最適の原則)、実施条件のバランスをとる能力(経営変革プロジェクト実施条件バランスの原則)、リスクを意識して運営する能力(経営変革プロジェクトにおけるリスク意識の原則)	
					深耕力	人間関係を構築する能力、分析・評価する能力	
					継続力	持続的な成長を目指す能力(学習と成長の原則)	
					革新力	プロセスを改善・改革する能力、提供価値を問いつける能力(価値創造の原則)	
					コミュニケーション力	自分の考えを伝える力	プロフェッショナルの意識を持つ能力、経営者の「思い」を伝え組織を動かす能力(経営者牽引の原則)
						相手の考えを理解する力	資質・適性を合わせる意識を持つ能力
					共感を呼ぶ力	自己意識を持つ能力、協同意識を持つ能力、合意形成する能力	
C2	変革プロジェクトのモニタリング&コントロールをすること【モニタリング&コントロール】			(戦略)市場機会の評価と選定	ビジネス環境分析手法	ニーズ&ウォンツの把握、ニーズの分析と優先順位付け、マーケティング環境分析、マーケティング戦略の長所と短所、モデル(待ち行列モデル、販売反応モデル等)、ユーザーニーズの把握、価格感受性、概念、環境要因の分析、技術的環境、競合の戦略の分析、経済環境、現状課題の調査と分析、顧客に対するポジショニングと設定、顧客要望、購買決定プロセスの理解、購買決定プロセス、購買行動に影響を与える要因の理解(文化的要因、社会的要因、個人的要因、心理的要因)、購買行動の理解、購買人口、差別化の検討、最適化ルーチン(微分法、数値計画法、統計的決定理論、ゲーム理論等)、財務分析、参入障壁の分析、市場セグメントの選択、市場セグメントの評価、市場と市場セグメントの理解と設定、市場の機会と脅威の発見、市場規模、市場細分(地理的要因、人口動態変動、心理的要因、行動上の変数等)、市場調査と市場需要の測定、自社の強み分析、自社内のポジショニング分析と設定、社会情勢、需要の弾力性、需要曲線の見直し、人口動態環境、人的資源分析、政治、製品またはサービスのライフサイクル段階の分析、製品またはサービスの優位性分析、組織分析、弾力的需要、定量的方法論の適用と実践、統計的ツールの活用(重回帰、判別分析、因子分析、クラスター分析、コンジョイント分析、多次元尺度法)、非弾力的需要、分析ツールとモデルを活用した投資分野の選定、文化的環境、法的环境、優先順位の選定	
					ビジネス戦略と目標・評価	CSF(CriticalSuccessFactors)、IS投資評価手法、IT投資効果分析、IT評価手法、KGI(KeyGoalIndicator)、KPI(KeyPerformanceIndicator)、KT法、PEST分析、WBSIに関する知識、ギャップ分析手法、シナリオプランニング、ナレッジマネジメント、ニーズ・ウォンツ分析、バランススコアカード、ヒアリング手法、ビジネスモデリングに関する知識、ビジネス環境分析、ビジネス戦略立案、ベンチマーク、ポジショニング、リスクマネジメント、リスク分析手法、仮説構築法、企業競争力の分析手法、競合分析、業務分析手法、構造化手法、差異分析手法、成果の定量評価に関する知識、戦略マネジメントに関する知識、戦略目標、当該分野のソリューション市場に関する知識	
					経営管理システム	CRM、ERP、SaaS、SCM(SupplyChainManagement)、SFA(SalesForceAutomation)、SOA(ServiceOrientedArchitecture)、ナレッジマネジメント、意思決定支援、企業内情報ポータル(EIP)	
					経営戦略手法	3Cモデル、3C分析、5Forces、6W1H、7S、CSF(CriticalSuccessFactors)、M&A、PDCAサイクル(経営戦略立案)、PDCAサイクル(経営分析)、PPM、アウトソーシング、アライアンス、インセンティブ、エンジニアリングシステム分野とビジネスシステム分野における情報システム活用の活用、グループ経営、コアコンピタンス、シェアードサービス、バランススコアカード、リソースチェーン分析手法、ブルーオーシャン戦略、関連法規の理解と遵守、企業会計、企業理念、競合分析手法、競争戦略、経営管理、経営工学、経営戦略の基礎(経営戦略の理論や手法)、経営戦略の基礎(顧客の要求・要望)、経営組織(事業部制、カンパニ制、CIO、CEOほか)、差別化戦略、情報システム評価手法、情報戦略、成長マトリクス、連関図手法/ロジックツリー、SWOT分析	
					最新技術動向把握の手法	アプリケーションに関わる技術動向の把握、インダストリアルアプリケーション設計の実践、インダストリアル共同アプリケーションに関する知識の活用、インダストリアル固有アプリケーションに関する知識の活用、ビジネス特許に関わる技術動向の把握、業務別アプリケーション設計の実践、業務別関連技術情報把握の把握と活用、業務別最適プラットフォーム選定、国際標準、業界標準、最新アプリケーションパッケージ動向の把握、最新インダストリアルアプリケーション動向の把握、最新ファンクティ、ネットワーク製品技術動向の把握と活用、最適プラットフォーム選定、先端技術、注目技術、国内外のIT市場規模と動向の把握、最新システム管理技術動向の把握、最新セキュリティ技術動向の把握、最新データベース技術動向の把握、最新ネットワーク技術動向の把握、最新ハードウェア技術動向の把握、最新ミドルウェア技術動向の把握、最新プラットフォーム技術動向の把握、次世代のeビジネスとその発展の把握	
				(企画)セールス事務管理手法	契約事務手法	クレーム管理、サービス仕様とサービスレベルの検討、外注、OEM契約業務の理解、関連法規の理解と遵守、記録マネジメント・システム、契約の締結、契約業務の理解、契約条件の確認と合意、契約条文中に関する確認、折衝、契約内容の合意形成、契約変更管理システム、検査及び監査、固有契約書の作成、顧客環境の理解、顧客契約担当部門との交渉、購入者主催のパフォーマンス・レビュー、支払システム、自社内関連部門との調整、実績報告、情報技術、例外事項の処理	

大分類コード	タスク大分類	中分類コード	タスク中分類	スキル大分類	スキル分類	スキル項目	知識項目	
				ソフトウェアエンジニア	(実装) データマイニング手法	データ分析手法	t検定、カイ2乗検定、データ分析、仮説検定、決定係数(R2乗)、検定によるデータ分析、推定によるデータ分析、相関分析、多次元分析	
						マイニングモデル手法	データ・マイニング・モデル、マイニング・アルゴリズム、論理(LogicalDataSpec)スキーマ、論理データ仕様の定義	
						テキストマイニング手法	MapReduce、コレスポンデンス分析、テキストマイニング、マイニング設定の定義、数量化理論、文章のカテゴリ化、Hadoop、Sawzall(プログラミング言語)	
						(支援活動) 品質マネジメント手法	品質レビュー手法	CBR(ChecklistBasedReading)、CFIA(構成要素障害影響分析)、EMEA(エラーモード故障解析)、FTA(フォールトの木解析)、MISRA-C、PBR(PerspectiveBasedReading)、PQ(バタン・キュー)デザインレビュー、SBR(Scenario-BasedReading)、アドホックレビュー、アルゴリズム分析、インスベクション、インタフェース分析、ウォークスルー、エラーモード、ソフトウェアFM EA、ソフトウェアFMECA、チームレビュー、デザインレビュー(設計審査)、バスアラウンド、バスターレス、ピアデスクチェック、ピアレビュー、フォールトに基づいた技法、フォールトモード、ヘアログラミング、モジュール展開、ラウンドロビンレビュー、ラン・スルー、リーディング技法、レビューの技法、レビュー方法、形式言語、形式手法に基づくレビュー、故障モード、仕様・コードに基づいた技法、七つの設計原理、制御フロー分析、静的解析、複雑度のメトリクス、複雑度分析
						検査のマネジメント手法	IPD(統合製品開発)、ソフトウェア工場、ドキュメント検査、意思決定のマネジメント、検査、検査のマネジメント、検査計画、源流管理、合否判定、出荷判定、製品検査、製品検査工程、設計部門と検査部門の明確な分離、中間工程品質管理、中間成果物の検査工程、中間品質監査、品質の作り込み	
						品質マネジメント手法	DMAIC、IV&V、MAIC、QCサークル、Qfinity、SWQC、シックスシグマ、ソフトウェア品質推進活動、トヨタ生産システム(TPS)、レビュー重視、小集団活動、障害分析に基づく改善、全員参加、独立した品質保証部門の存在、日本におけるソフトウェア品質保証、品質マネジメント組織、品質会計	
						品質に関する基礎	5ゲン主義、DR(設計レビュー)、ISO/IEC25000シリーズ(SQuaRE)、McCallの品質モデル、QCD、QCサークル活動、QC診断、RAD、SQC(統計的品質管理)、SQMAT、アンチパターン、エラー、コトづくり、サービスの品質、システム/ソフトウェア製品の品質モデル(ISO/IEC25000シリーズ)、シミュレーションモデル、セーフティ、セキュリティ、ソフトウェアの品質、ソフトウェアの品質マネジメントの特徴、ソフトウェア/パターン、ソフトウェア製品の品質モデル(ISO/IEC9126シリーズ)、ソフトウェア品質、ソフトウェア品質モデル、ソフトウェア品質特性、ディペンダビリティ、ディペンダビリティの定義、ディペンダビリティ管理、ディペンダビリティ管理に関する規格、データ品質モデル、デミング賞、バグ、フォールト、プロセス品質、プロダクト品質、メトリクス、モデル化、モデル検査、ユーザビリティ、リアリティ、安全性、移植性、一元の品質改善、外部特徴、外部品質特性、機能性、狭義の質、系統故障、経営管理の14の原則、結果系、検査重点主義、現地・現物、故障、顧客志向、効率性、工程管理重点主義、広義の質、使用性、次工程はお客様、質、小集団活動、消費者指向、障害、信頼性、新製品開発重点主義、図式モデル、数理モデル、生産性、製品品質、製品品質モデル、設計品質、全員参加、全社の品質管理、組織活性化、適合品質、当たり前品質、特性要因図、内部特徴、内部品質、内部品質特性、日本の品質管理、品質の概念、品質の作り込み、品質の相対性、品質の定義(GeraldM. Weinberg)、品質の定義(IEEEStd610)、品質の定義(ISO/IEC25000シリーズ)、品質の定義(ISO9000)、品質の定義(JamesMartin)、品質の定義(JosephM. Juran)、品質の定義(PhilipB. Crosby)、品質の定義(RobertL. Glass)、品質の定義(RogerS. Pressman)、品質の定義(WilliamE. Deming)、品質の定義(狩野紀昭)、品質の定義(石川馨)、品質の定義(飯塚悦功)、品質の定義(品質の考え方の変遷)、品質マネジメント、品質改善、品質管理(qualitycontrol)、品質計画、品質作り込み技術、品質第一、品質特性、品質副特性、品質保証、保守性、保全性、満足性、魅力的品質、無欠陥(ZeroDefects)、有効性、要因系、利用時の品質、利用時の品質モデル、利用時の品質特性、論理的推論	
						セキュリティ品質に関する手法	ISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)、KAOS、SDL、STRIDE、UMLsec、アタックツリー分析、アタックパターン、クロスサイトスクリプティング、ゴール指向要求技法、コモンライテリア、セキュアコーディング、セキュリティ、セキュリティテスト、セキュリティの技法、セキュリティパターン、セキュリティユースケース法、セキュリティ機能要件、セキュリティ設計、セキュリティ評価手法CEM(CommonEvaluationMethodology)、セキュリティ保証要件、セキュリティ要求分析、セキュリティ要件、ファンジック、フォレンジック、プライバシー、ペネトレーションテスト(侵入テスト)、ミスユースケース法、攻撃、情報セキュリティ、脆弱性	
						ユーザビリティ品質に関する手法	CI(CommonIndustryFormatforUsability)、UCD(人間中心設計)、UX(UserExperience)、インタラクティブシステムの人間中心設計、エキスパートレビュー、ヒューリスティック法、ユーザーエクスペリエンス、ユーザビリティ、ユーザビリティテスト、ユーザビリティラボ、リモート・ユーザビリティテスト、効率性、使用性、使用性の技法、思考発露法、認知的ウォークスルー、満足性、有効性	
						セーフティ品質に関する手法	SIL(安全度水準)、アクティブセーフティ、エラープルーフ、エラー推測テスト、セーフティ、セーフティ・クリティカルシステムのテスト、セーフティの技法、ハザード(hazard)、ハザードに対するシナリオテスト、パッシブセーフティ、フェイルセーフ、フェイルソフト、フェイルソフト、フォールト・アポイダンス、フォールト・トレランス、リスクアセスメント技法(ISO/IEC31010)、リスク低減技法、リスク抑制の完全性水準(IntegrityLevel)、レジリエンス(Resilience)、安全(safety)、安全機能、安全機能に対するテスト、安全性、安全性解析、危害(harm)、機能安全(FunctionalSafety)、固有安全(IntrinsicSafety)、故障モード、信頼性、本質安全(InherentSafety)	
						法的権利・法的責任のマネジメント手法	OSSライセンス、PL法(製造物責任法)、個人情報保護法、商標法、知的財産権、知的財産権の法的権利・法的責任のマネジメント、知的財産権以外の法的権利・法的責任のマネジメント、著作権法、特許法、不正アクセス禁止法、法的権利・法的責任のマネジメント	
						品質要求分析手法	FURPS+、GQM手法、NFRフレームワーク、Planguage、QFD(品質機能展開)、RASIC、フィーチャーツリー、フィーチャーマトリクス、ユーティリティ・ツリー、概念モデル、機能要求、機能要求分析、非機能要求、非機能要求グレード、非機能要求分析、品質機能展開、品質表、品質要求定義、要求可変性分析、要求分析	
						品質マネジメントシステム構築手法	"品質第一"の考え方、CC/CEM、CC承認協定、ISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)、ITセキュリティ評価認証制度、QCサークル活動、QC診断、QMS、SQLインジェクション、TQC(総合的品質管理)、TQM(総合的品質マネジメント)、コモンライテリア、セキュリティゲート、セキュリティのマネジメント、セキュリティホール、ソフトウェア品質マネジメントシステムの構築と運用、データ・事実に基づく管理、バックアップ・オーバーフロー、プロセスアプローチ、プロテクションプロファイル、暗号アルゴリズムの発給化、機能別管理、継続的改善、現地・現物、質、小集団活動、人間性尊重、脆弱性、脆弱性管理、全員参加、全員参加型の改善活動、全社の品質管理、組織活性化、認証制度、品質マネジメントシステム、品質マネジメントシステムに関する規格(ISO9000シリーズ)、品質マネジメントシステム-持続的成功の指針(JISQ9005)、品質改善、品質管理、品質計画、品質保証、品質目標、方針管理	
					品質保証に関する手法	IV&V(IndependentV&V)、NASAのIV&V、V&V(Verification&Validation)、V&V計画、プロセス、プロダクト、検証(Verification)、妥当性確認(Validation)、品質マネジメント、品質保証		
					品質測定・評価手法	CyclomaticNumber、GQM(Goal, Question, Metric)、LOC(ソースコード行数)、SoftwareScience、システム及びソフトウェア測定、システム及びソフトウェア評価、ソフトウェアプロセス・プロダクト計量、ソフトウェアプロセス計量手法、ソフトウェア情報モデル、ソフトウェア測定プロセスに関する規格(ISO/IEC15939)、ソフトウェア品質の考え方、ファンクションポイント、フォールト種まき、プロセスメトリクス、プロセス品質、プロダクトメトリクス、プロダクト品質、メトリクス、開発基盤のメトリクス、外部メトリクス、外部品質、間隔尺度、間接測定値、基本メトリクス、基本測定量、規模メトリクス、計量結果の品質、作業品質、指標、尺度、順序尺度、測定プロセス、測定尺度、測定値、測定理論、測定量、属性、直接測定値、導出メトリクス、導出測定量、内部メトリクス、内部属性、比率尺度、評価プロセス、評価基準、評価要求、評定水準、品質メトリクス、品質モデル、品質特性、品質副特性、複雑度のメトリクス、変異し留め数、名義尺度、網羅度/徹底度計量尺度、利用時の品質メトリクス		

大分類コード	タスク大分類	中分類コード	タスク中分類	スキル大分類	スキル分類	スキル項目	知識項目			
				関連知識	(支援活動) リスクマネジメント手法	リスク管理手法	ISO/IEC27001、ISO31000、RiskIT、テクニカル・オブザベーション・ポスト、バレット分析、リスクに対する取り組み方法の策定、リスクの管理(M_o_R)、リスクの事前評価、リスクの識別、リスクへの対応、リスクマネジメント計画策定、リスク監視と管理、リスク管理の原則、リスク識別、リスク対応計画の策定、仮説検定、管理目的と管理方法の策定、残留リスクの承認、実現可能性の評価、障害の分離、親和図法、石川ダイヤグラム、定性的リスク分析、定量的リスク分析、不測事態対応計画			
						情報セキュリティ管理手法	COSOERMフレームワーク、PKI、インシデント、ガイドラインと関連法規、セキュリティ・コントロール、セキュリティ対策(機密保護、改ざん防止対応、不正侵入、コンピュータウイルス、インテグリティ対策、可用性対策、安全対策、ソーシャルエンジニアリング)、セキュリティ対策の初動処理、セキュリティ保護の実施、セキュリティ問題からの復旧、セキュリティ問題の検知、セキュリティ問題の分析、セキュリティ要件の設定、プライバシー保護、リスク管理、日本版COSOフレームワーク			
						(支援活動) ITガバナンス	ITガバナンス手法	ITサービスマネジメント(ITIL、ISO2000)、エンタープライズのアーキテクチャ(ザックマンフレームワーク、TOGAF)、コーポレートガバナンス(COSOERM)、システム開発プロセス改善(SEICMMI)、システム開発ライフサイクル(ラショナルユニファイドプロセスなど)、プロジェクトマネジメント(PRINCE II、PMIPMBOK)、インタビュー、プレーンストーミング、プロセス・モデリング、レビュー、ワークショップ、課題トラッキング、教訓、組織モデリング、調査やアンケート、文書分析		
						(支援活動) 資産管理手法	知的資産の管理活用手法	ビジネスモデル特許、効果の把握と改善の実施、知財マネジメントシステム(自社知的財産権の侵害控訴)、知財マネジメントシステム(知的財産権の取得)、知財マネジメントシステム(知的財産権の侵害チェック)、知財マネジメントポリシー(著作権の確保)、知財マネジメントポリシー(発明の特許化)、知財マネジメントポリシー(法的な品質管理)、知的資産のデータベース化(付加価値、構造化、共有化)、知的資産の維持、管理、知的資産の活用		
						(支援活動) 人材育成・教育・研修	人材育成管理手法	CCSF(共通キャリア・スキルフレームワーク)、CS(顧客満足)、ES(従業員満足)、ETSS(組込みスキル標準)、ISTQB、ISの歴史と進化、ISリテラシ、メディアリテラシ、ITSS(ITスキル標準)、iコンピテンシ・ディクショナリ、JCSQE、OFFJT、OJT、PS(パートナー満足)、SEPGリーダーコース、UISS(情報システムユーザースキル標準)、アンカーキャリア、カウンセリング、ギャップの分析、キャリアパス、キャリア開発計画、コーチング、ゴールの設定、スキル管理、スキル標準、ストレスが原因の病気と対応、ストレスの発見と対策、ヒューマンコミュニケーション、ファンリテイマナジメント、フォローと振り返り、ブレコーチング、メンタリング、メンタルケア、メンタルヘルスに関する知識、モチベーション、モチベーションマネジメント、育成計画、外部研修に関する知識、技術知識、教育・育成のマナジメント、教育・育成のマナジメント技法、教育計画の策定、教育講座開発、教育実施、業界標準に準拠した教育カリキュラムの知識、業務経験、研修計画、現状の明確化、個人別達成目標の設定、行動の決定、採用条件決定、資格に関する知識、自己実現、実績、人員体制作り、人間性の醸成、人材のスキル標準(ITSS、ETSS、UISS)、専門知識の修得と活用、専門分野知識、組織要員体制の計画、動機付け、特有のストレス、能力評価、評価・採用、募集、面談(定期、不定期)、目標設定進捗状況の確認、要員スキル(技術知識、業務経験)の把握と活用、要員育成の進捗管理		
						教育手法	インストラクショナルデザイン、オーサリング、プレゼンテーション技術の活用と実践			
				テクノロジ	(支援活動) 情報セキュリティ	リスク分析手法	ベースラインアプローチ、脅威の分類・調査、詳細リスク分析、脆弱性の把握・評価、組み合わせアプローチ、対策検討、調査方法、定性的リスク評価、定量的リスク評価、非形式的アプローチ、評価基準			
					企業活動	(共通技術) ナレッジマネジメント技術	FAQ	FAQの公開、FAQの作成手順		
							ナレッジベース	ナレッジベースのコンテンツ、ナレッジベースの構築、保守		
							ナレッジマネジメントの意義	ナレッジマネージメントのプロセス、ナレッジマネージメントの利点		
						ナレッジマネジメントシステム	ナレッジマネジメントシステムのメリット、ナレッジマネジメントシステムの機能、ナレッジマネジメントシステム導入時の留意点			
				ヒューマンスキル	情報セキュリティ監査	リスクアプローチ、監査リスク、監査技法、監査契約に関する一般知識、監査契約に関する法律、監査契約リスク、監査手続ガイドライン、監査証拠、監査人の基本的責務(外観上の独立性、精神上的の独立性、誠実性、秘密保持)、監査人の客観性、監査人の独立性、監査人の力量、監査人相互の倫理、監査品質、監査報告会、情報セキュリティ監査に関連するその他の監査、情報セキュリティ監査基準、情報セキュリティ監査実施基準、情報セキュリティ監査報告基準ガイドライン、情報セキュリティ管理基準、情報セキュリティ個別管理基準、被監査主体のリスクアセスメント結果、紛争審査、監査品質審査への協力				
					創造力	問題発見力	環境変化に敏感になる能力(環境変化洞察の原則)、ITを常に念頭に入れる能力(IT徹底利活用の原則)			
						実行・実践力	俯瞰力	ITCコンテンツを活用する能力、戦略と実行を合わせられる能力(戦略実行整合の原則)、全体視点で考える能力(全体最適の原則)、事実情報による客観的な観察を行う能力(評価客観性の原則)、ステイクホルダーの責任権限を明確にする能力(ステイクホルダーの責任権限明確化の原則)		
								深耕力	人間関係を構築する能力、分析・評価する能力	
								継続力	持続的な成長を目指す能力(学習と成長の原則)	
								革新力	プロセスを改善・改革する能力、提供価値を問い続ける能力(価値創造の原則)	
					コミュニケーション力	自分の考えを伝える力	プロフェッショナルの意識を持つ能力、経営者の「思い」を伝え組織を動かす能力(経営者牽引の原則)			
							相手の考えを理解する力	資質・適性を合わせる意識を持つ能力		
							共感を呼ぶ力	自己意識を持つ能力、協創意識を持つ能力、合意形成する能力		

大分類コード	タスク大分類	中分類コード	タスク中分類	スキル大分類	スキル分類	スキル項目	知識項目
		C3	革新プロジェクトにおける有効なコミュニケーションを実現すること【コミュニケーション】	マネジメント	(実装) プロジェクトマネジメント手法	プロジェクトマネジメント	システムのメトリクス、システム開発の品質保証、システム開発計画の策定、実施、システム文書の作成、スケジューリング、スコープとスコープ管理、ソフトウェアの計測および見積りの技法、ソフトウェア開発マネジメントの種類(調達マネジメント、プロジェクトマネジメント、開発マネジメント、保守マネジメント、リスクマネジメント等)、ソフトウェア構成管理の方法、ソフトウェア製品の品質保証に使用する様々な手法と技術、ソフトウェア品質保証の方法、チーム管理: チームプロセス、チーム編成と意思決定、ソフトウェアチームにおける役割と責任、役割の識別と割当て、プロジェクト追跡、チーム問題解決、トラッキング、プロジェクト、プロジェクト&プログラムマネジメント(P2M)、プロジェクト・スコープ管理、プロジェクトガバナンス、プロジェクトスタッフの考え方(例:マトリクス管理、人間の要因、チーム組織、報告)、プロジェクトにおける品質マネジメントの指針に関する規格(ISO10006)、プロジェクトの完了、プロジェクトの環境、プロジェクトの管理(計画、コストの見積り、資源配分、ソフトウェアの技術的レビュー、分析、フィードバック、コミュニケーション、品質の確保、スケジューリング、マイルストーン)、プロジェクトの制約、プロジェクトの組織、管理、原則、概念、問題、プロジェクトの追跡(例:PERT、ガント、CPM、CC)、プロジェクトマネジメント、プロジェクトマネジメントに関する知識、プロジェクトマネジメントの役割、プロジェクトマネジメント計画書作成、プロジェクトライフサイクル、プロジェクト管理ツール、プロジェクト計画、プロジェクト計画と適切なプロセスモデルの選択、プロジェクトのスケジューリングとマイルストーン、プロジェクト計画に関する規格(ISO、IEC/IEEE16326)、プロジェクト憲章作成、プロジェクト作業の監視コントロール、プロジェクト実行の指揮・マネジメント、プロジェクト終結、プロセス設計におけるトレーニング、モニタリングと報告、ユーザ文書の作成(例:参照マニュアル、操作手順、オンライン文書)、リスクマネジメントに関する知識(ERMなど)、リスク分析、リスク分析の方法、一般的なプロジェクトマネジメント、管理上の概念、ストレスと時間管理、業務遂行能力の基準、計画、結果の測定と分析、古典的なマネジメントモデル、構成管理、作業構造(WBS)とスケジューリング、資金調達/見積もり/予算作成、事後分析、是正リカバリ、全社的/組織的なマネジメントの構造、統合変更管理、費用便益分析、複数プロジェクトの管理、変更のコントロール、報酬と規律、役割/責任/説明責任
						プロジェクト統合マネジメント	EVM(EarnedValueManagement)、WBS(WorkBreakdownStructure)の作成、アクティビティ所要期間見積り手法、アクティビティ定義、ガントチャート:プロジェクト計画、コスト計算、チームワーク、クリティカルパス、システムのリリース手順の作成、システムの変更のトレース、システムの変更監視、システムの変更計画、システムライフサイクル、システムリリースの実施、システム開発手法、システム工学におけるプロジェクト管理の性質、基本原理、システム構成管理、タスクのスケジューリング、チーム編成、ソフトウェアプロジェクト管理の難しさ、データの統計的分析手法、ナレッジマネジメント、プロジェクト・スコープ記述書の記述項目、プロジェクトフェーズ又はプロジェクトの終結、プロジェクトマネジメント計画(プロジェクト境界の識別)、プロジェクトマネジメント計画(個別マネジメント計画の最適化)、プロジェクトマネジメント計画(実績測定ベースラインの識別)、プロジェクトマネジメント計画書の記述項目、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクト完了後評価指標、プロジェクト管理情報の確保、仕様へのタイムリーな準拠、タイムリーな引き渡し、プロジェクト計画の作成、プロジェクト憲章(ビジネス視点でのプロジェクト目的・ニーズの識別)、プロジェクト憲章(プロジェクトマネージャの責任の識別)、プロジェクト憲章(前提/制約条件、重要リスクの識別)、プロジェクト憲章の記述項目、プロジェクト憲章の作成、プロジェクト作業のコントロール、プロジェクト作業の監視コントロール、プロジェクト作業の指揮、プロジェクト実行の指揮・マネジメント、プロジェクト選定手法、リスクマネジメント、リリースの割り当て、リリース可否判定、意思決定をチームに割り当てる、問題と選択肢、開発プロジェクト体制構築に関する知識、開発投資対効果、学んだ教訓の収集、管理サポートの測定基準の役割、業務運用設計、契約計画、計画と評価、見積り手法、工数の見積り、資源配分、出荷判定、専門家の判断、統合変更管理(変更管理委員会による合意形成)、統合変更管理(変更手順の確立)、統合変更管理(変更追跡)、特別採用、標準、法的要件、コンサルタント、下請業者、それらの利用と管理、品質計画、品質保証、変更のコントロール、問題解決手法、ファンリテーション技法、プロジェクトマネジメント情報システム、会議、分析技法、変更管理ツール
						プロジェクトコミュニケーションマネジメント	「Zカード」/多重折参照カード、1対1のミーティング、E-Learning、OHSAS18001労働安全衛生マネジメントシステム、イントラネット、オフショア開発、キャリアプラン(キャリアパス、キャリアカウンセリング)、コミュニケーションシナリオ、コミュニケーションに対する要求事項の分析、コミュニケーションの管理、コミュニケーションの計画、コミュニケーション計画(コミュニケーションマネジメント計画書の作成/合意)、コミュニケーション計画(コミュニケーション技術の活用)、コミュニケーション計画(コミュニケーション要求の分析)、コンプライアンス、コンプライアンス教育、シミュレーション・ゲーム、ステークホルダー・マネジメント、ステークホルダー間情報共有(コミュニケーション手段)、ステークホルダー間情報共有(課題共有)、ステークホルダー間情報共有(協力/すり合わせ)、チーム・ミーティング、トレーニング・セッション、ニュースレター、パートナーとのコミュニケーション、プリッジSE、プロジェクト実績情報(パフォーマンスレビュー会議)、プロジェクト実績情報(パフォーマンス情報の収集・編集)、プロジェクト実績情報(実績データ収集システム)、ポスター/ロードマップ、ワークショップ、外部委託、給与明細による通知、教育・訓練の実施方法、教育・訓練の評価方法、教訓プロセス、掲示板やメールボックスを使った質疑応答やフィードバック、購買先プロセス監査、情報の配布、情報収集検索システム、情報倫理、組織全体のミーティング、組織論、内部統制、捕捉連絡文書、労働衛生安全法、オンライン・コラボレーション・ツール、コミュニケーション・モデル、コミュニケーション技術、コミュニケーション手段、コミュニケーション方法、コミュニケーション要求事項分析、パフォーマンス報告、ベロシティ、過去のベロシティ、会議、思慮深いコミュニケーション、自動化システム、情報マネジメントシステム、情報ラジエーター、情報配布ツール、専門家の判断
				ヒューマンスキル	創造力	問題発見力	環境変化に敏感になる能力(環境変化洞察の原則)、ITを常に念頭に入れる能力(IT徹底活用原則)
					実行・実践力	俯瞰力	ITコンテンツを活用する能力、戦略と実行を合わせる能力(戦略実行整合の原則)、全体視点で考える能力(全体最適の原則)
						深耕力	人間関係を構築する能力、分析・評価する能力
						継続力	持続的な成長を目指す能力(学習と成長の原則)
						革新力	プロセスを改善・改革する能力、提供価値を問い続ける能力(価値創造の原則)
					コミュニケーション力	自分の考えを伝える力	プロフェッショナルの意識を持つ能力、経営者の「思い」を伝え組織を動かす能力(経営者牽引の原則)
						相手の考えを理解する力	資質・適性を合わせる意識を持つ能力、効果的なコミュニケーションを行う能力(効果的コミュニケーションの原則)、論理的なコミュニケーションを行う能力(論理的コミュニケーションの原則)
					共感を呼ぶ力	自己意識を持つ能力、協創意識を持つ能力、合意形成する能力、不一致領域の調和で合意形成を行う能力(集団的意思決定の原則)	